

9 行政サービスについて

(1) 公共施設の利用状況と今後のあり方

(1)-1 最近1年間に利用した公共施設

問 57. あなたが最近1年間に利用した公共施設はどれですか。あてはまる番号に○印をつけてください。(いくつでも○印)

最近1年間に利用した公共施設(図3.9.1)は、「行政施設」の割合が64.6%と最も高く、次いで「生涯学習施設」の割合が31.7%、「市民交流施設」の割合が17.5%となっています。

性別(表3.9.1)にみると、女性・男性ともに「行政施設」の割合が最も高くなっています。また、男性に比べ、女性で「生涯学習施設」の割合が高くなっています。

年齢別にみると、いずれも「行政施設」の割合が最も高く、他の年齢層に比べ、特に50歳代で高くなっています。また、40歳代で「生涯学習施設」の割合が高くなっています。

居住地域別にみると、いずれも「行政施設」の割合が最も高く、特に、千里ニュータウン・万博・阪大地域で最も高くなっています。

家族構成別にみると、いずれも「行政施設」の割合が最も高く、15歳未満の親族がいない世帯に比べ、15歳未満の親族がいる世帯でその割合が高く、うち、6歳未満の親族がいる世帯で、最も高くなっています。また、6歳未満の親族がいる世帯では、「児童福祉施設」「保健・医療施設」の割合も高くなっています。

図 3.9.1 最近1年間に利用した公共施設

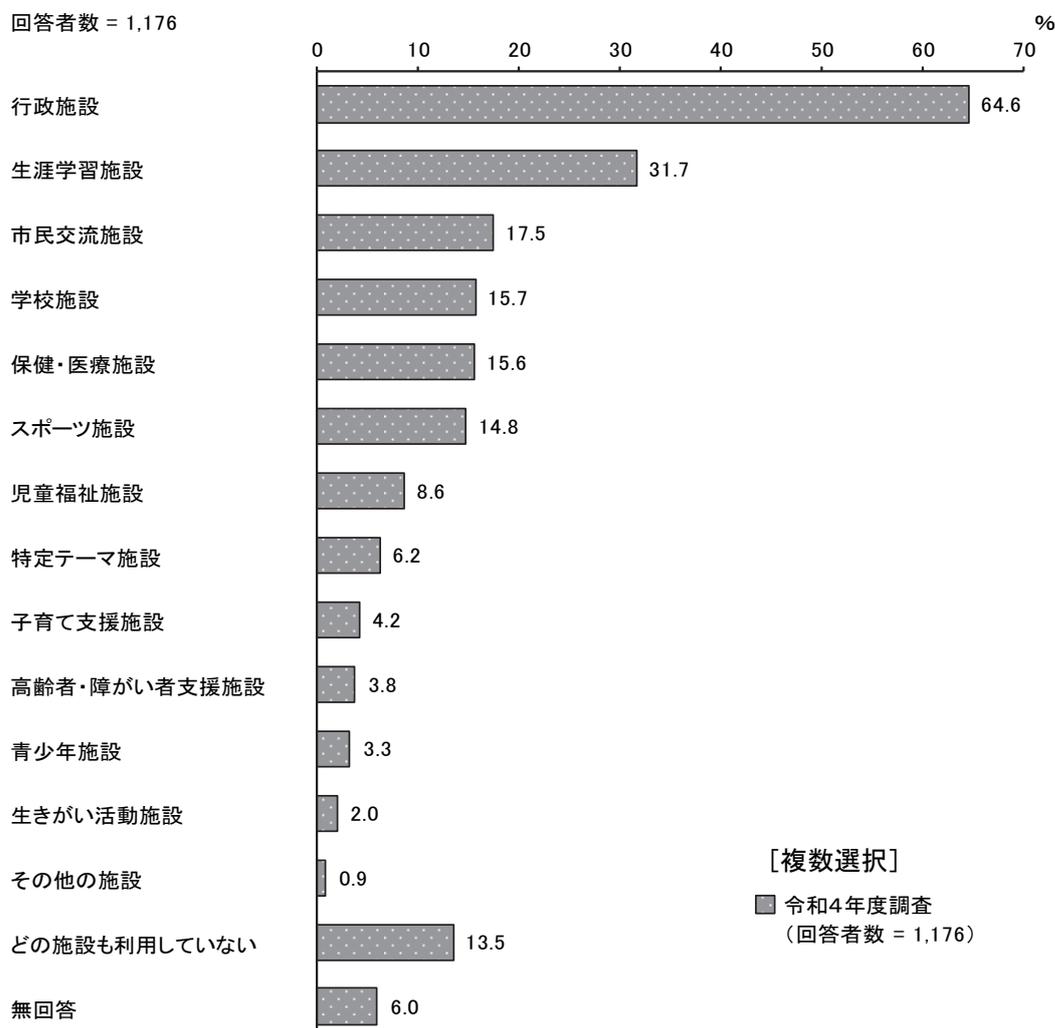


表 3.9.1 最近1年間に利用した公共施設(性別・年齢別・居住地域別・家族構成別)

単位：%

区分		回答者数 (人)	行政施設	市民交流施設	特定テーマ施設	生涯学習施設	青少年施設	スポーツ施設	児童福祉施設	子育て支援施設	学校施設	生きがい活動施設	高齢者・障がい者支援施設	保健・医療施設	その他の施設	どの施設も利用していない	無回答
全体		1,176	64.6	17.5	6.2	31.7	3.3	14.8	8.6	4.2	15.7	2.0	3.8	15.6	0.9	13.5	6.0
性別	女性	663	64.9	18.4	6.6	35.3	4.1	12.7	9.5	5.7	16.0	2.7	5.6	14.0	0.8	12.5	5.7
	男性	502	64.3	16.3	5.8	27.3	2.4	17.7	7.6	2.2	15.7	1.0	1.6	17.7	1.0	14.3	6.6
	無回答	9	66.7	11.1	0.0	22.2	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	33.3	0.0
年齢別	30歳未満	108	55.6	2.8	0.9	30.6	1.9	21.3	6.5	2.8	8.3	0.9	2.8	13.7	1.9	14.8	8.3
	30歳代	158	67.7	16.5	3.8	38.0	5.1	24.1	29.7	15.2	30.4	0.0	1.9	28.5	0.6	10.8	2.5
	40歳代	223	65.9	20.2	5.8	39.0	7.2	22.0	15.7	7.2	37.7	0.4	3.6	17.5	0.0	9.9	5.8
	50歳代	214	71.5	17.3	4.2	23.8	3.3	11.7	2.3	1.9	9.3	0.5	2.3	17.8	0.9	12.1	4.2
	60歳代	182	67.0	16.5	8.2	30.8	0.5	8.2	1.1	0.5	4.4	0.5	3.3	9.9	1.1	12.6	7.1
	70歳以上	281	58.7	22.8	10.3	29.9	1.8	8.2	1.8	0.4	5.7	6.8	7.1	9.6	1.1	18.5	7.8
	無回答	10	60.0	10.0	0.0	20.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	30.0	10.0
居住地域別	JR以南	99	53.5	17.2	6.1	29.3	0.0	9.1	6.1	1.0	8.1	3.0	6.1	5.1	1.0	21.2	9.1
	片山・岸部	161	66.5	17.4	7.5	34.2	8.1	27.3	10.6	4.3	19.3	1.2	3.1	15.5	1.2	13.0	7.5
	豊津・江坂・南吹田	221	60.6	11.3	2.7	24.0	2.3	14.5	5.9	2.3	14.9	1.8	2.7	14.0	0.0	11.8	8.6
	千里山・佐井寺	210	62.4	20.0	8.6	33.3	3.3	16.7	10.0	5.7	18.1	1.4	3.8	20.0	0.5	13.8	6.2
	山田・千里丘	248	64.1	18.5	3.6	33.7	2.8	9.3	10.1	5.2	15.7	2.4	4.4	14.5	1.2	14.5	3.6
	千里NT・万博・阪大	225	74.7	20.9	9.8	34.7	3.1	12.9	8.4	4.9	16.0	2.2	4.0	19.1	1.3	10.2	4.0
	無回答	12	66.7	8.3	0.0	33.3	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	25.0	0.0
家族構成別	15歳未満の親族あり	270	68.9	23.3	6.7	49.3	8.5	32.2	31.1	15.9	51.5	0.7	1.5	26.3	0.7	4.4	3.7
	うち12歳未満の親族あり	222	69.8	24.8	5.9	49.5	9.9	35.1	37.4	18.9	55.9	0.5	1.4	28.4	0.9	4.1	3.6
	うち6歳未満の親族あり	127	72.4	22.0	4.7	47.2	7.9	28.3	46.5	22.0	43.3	0.8	0.8	40.2	1.6	3.7	3.1
	15歳未満の親族なし	854	63.5	15.2	6.2	26.6	1.8	9.6	1.8	0.7	5.3	2.5	4.7	12.9	0.9	16.0	6.6
	65歳以上の親族あり	324	61.7	20.4	9.3	32.1	2.5	9.3	2.8	0.9	7.4	4.6	7.1	12.0	1.2	14.2	5.9
	うち75歳以上の親族あり	159	65.4	20.8	10.1	30.2	2.5	8.8	0.6	0.0	8.2	7.5	10.1	12.6	1.9	13.2	5.7
	うち85歳以上の親族あり	41	58.5	4.9	4.9	34.1	2.4	0.0	0.0	0.0	2.4	7.3	9.8	4.9	2.4	14.6	7.3
	65歳以上の親族なし	800	66.0	15.9	5.1	32.0	3.8	17.4	11.3	5.8	20.0	1.0	2.6	17.8	0.8	12.9	5.9
	無回答	52	61.5	25.0	3.8	25.0	1.9	9.6	3.8	0.0	1.9	0.0	1.9	3.8	0.0	19.2	9.6

(1)-2 効果的かつ効率的に公共施設の建設や管理・運営を行っていくために進めるべき取組

問 58. 効果的かつ効率的に公共施設の建設や管理・運営を行っていくためには、どのような取り組みを進めるべきだと思いますか。(いくつでも○印)

効果的かつ効率的に公共施設の建設や管理・運営を行っていくために進めるべき取組(図 3.9.2)は、「現在ある施設の複合化・多機能化や集約化を進める」の割合が 39.1%と最も高く、次いで「施設の建設や改修などを実施する際は、内装を華美で豪華なものにせず、必要最低限のものにして、トータルコストを削減する」の割合が 34.4%、「施設の建設や管理運営に、業務委託や民営化など民間活用を進める」の割合が 26.2%となっています。

性別(表 3.9.2)にみると、女性に比べ、男性で「現在ある施設の複合化・多機能化や集約化を進める」「施設の建設や管理運営に、業務委託や民営化など民間活用を進める」の割合が高くなっています。

年齢別にみると、他に比べ、30歳代で「現在ある施設の複合化・多機能化や集約化を進める」の割合が高くなっています。また、50歳代で「施設の建設や管理運営に、業務委託や民営化など民間活用を進める」の割合が、70歳以上で「施設の建設や改修などを実施する際は、内装を華美で豪華なものにせず、必要最低限のものにして、トータルコストを削減する」の割合が高くなっています。

居住地域別にみると、他に比べ、千里ニュータウン・万博・阪大地域で「現在ある施設の複合化・多機能化や集約化を進める」「施設の建設や管理運営に、業務委託や民営化など民間活用を進める」の割合が高くなっています。また、千里山・佐井寺地域で「近隣自治体と共同で施設を建設、管理・運営する」「施設の建設や改修などを実施する際は、内装を華美で豪華なものにせず、必要最低限のものにして、トータルコストを削減する」の割合が高くなっています。

図 3.9.2 効果的かつ効率的に公共施設の建設や管理・運営を行っていくために進めるべき取組

回答者数 = 1,176

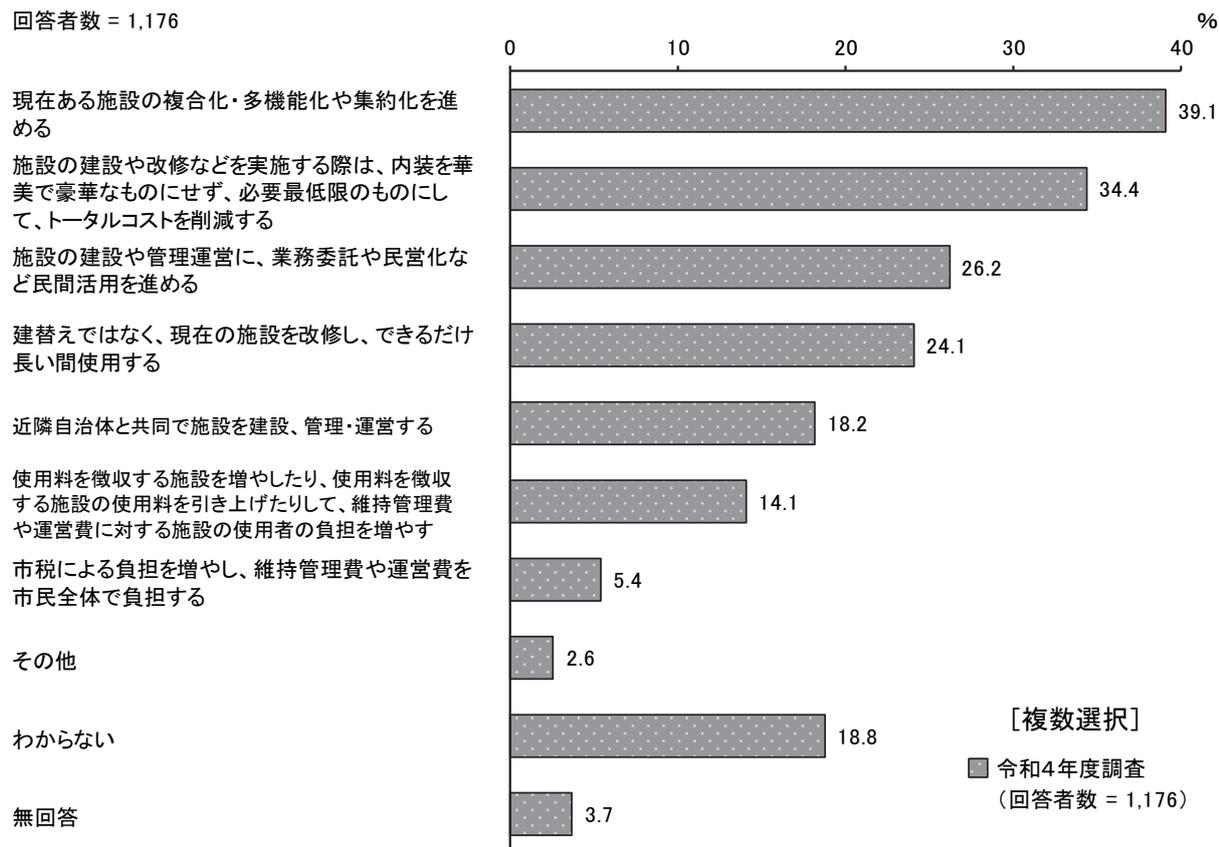


表 3.9.2 効果的かつ効率的に公共施設の建設や管理・運営を行っていくために進めるべき取組(性別・年齢別・居住地域別)

単位：%

区分		回答者数(人)	現在ある施設の複合化・多機能化や集約化を進める	施設の建設や管理運営に、業務委託や民営化など民間活用を進める	近隣自治体と共同で施設を建設、管理・運営する	建替えてではなく、現在の施設を改修し、できるだけ長い間使用する	施設の建設や改修などを実施する際は、内装を華美で豪華なものにせず、必要最低限のものにして、トータルコストを削減する	使用料を徴収する施設を増やしたり、使用料を徴収する施設の使用料を引き上げたりして、維持管理費や運営費に対する施設の利用者の負担を増やす	市税による負担を増やし、維持管理費や運営費を市民全体で負担する	その他	わからない	無回答
全 体		1,176	39.1	26.2	18.2	24.1	34.4	14.1	5.4	2.6	18.8	3.7
性別	女性	663	36.0	21.9	15.5	24.3	34.8	13.1	4.4	2.6	21.6	4.5
	男性	502	43.2	31.5	21.7	23.7	34.1	15.1	6.8	2.4	15.5	2.4
	無回答	9	33.3	33.3	11.1	22.2	33.3	22.2	11.1	11.1	0.0	11.1
年齢別	30歳未満	108	40.7	19.4	17.6	15.7	28.7	6.5	6.5	0.0	19.4	4.6
	30歳代	158	44.3	25.3	15.2	22.2	27.2	8.2	3.8	2.5	19.0	1.3
	40歳代	223	42.2	28.3	17.9	17.0	35.9	17.5	4.9	4.0	15.7	2.7
	50歳代	214	43.5	37.9	20.1	20.6	33.2	15.9	5.6	2.3	17.3	1.4
	60歳代	182	39.0	23.6	18.1	29.7	37.4	14.3	5.5	3.3	17.6	1.1
	70歳以上	281	30.2	21.0	19.2	33.1	38.8	16.0	5.7	1.8	23.5	8.2
	無回答	10	30.0	10.0	10.0	20.0	30.0	20.0	20.0	10.0	0.0	20.0
居住地域別	JR以南	99	35.4	16.2	15.2	29.3	36.4	7.1	6.1	3.0	23.2	4.0
	片山・岸部	161	36.6	24.8	19.9	26.1	34.2	14.9	5.0	5.0	17.4	2.5
	豊津・江坂・南吹田	221	35.3	24.9	14.5	20.8	29.4	12.7	5.4	0.5	22.6	4.5
	千里山・佐井寺	210	35.2	26.2	21.0	20.0	38.6	17.1	4.8	3.3	20.0	3.8
	山田・千里丘	248	41.5	27.0	19.8	25.0	35.5	11.3	6.0	1.6	18.5	4.4
	千里NT・万博・阪大	225	48.0	32.4	18.2	25.8	33.3	18.2	4.9	2.7	13.8	2.2
	無回答	12	25.0	16.7	8.3	33.3	41.7	16.7	16.7	8.3	8.3	8.3

(1)-3 公共施設の総量に対する考え

問 59. 今後、財政状況が厳しくなっていくことが見込まれる中で、公共施設の総量（総延床面積）についてはどうお考えですか。
(最もあてはまるものに1つだけ○印)

公共施設の総量に対する考え（図 3.9.3）は、「市民ニーズなどを検証したうえで、減らす方が良い」の割合が 45.6%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 22.1%、「今ある公共施設は全て必要なので、現状維持する方が良い」の割合が 19.9%となっています。

性別（図 3.9.4）にみると、大きな差異はみられません。

年齢別にみると、他に比べ、30 歳代で「市民ニーズなどを検証したうえで、減らす方が良い」の割合が高くなっています。また、70 歳以上で「今ある公共施設は全て必要なので、現状維持する方が良い」の割合が高くなっています。

居住地域別にみると、他に比べ、千里ニュータウン・万博・阪大地域で「市民ニーズなどを検証したうえで、減らす方が良い」の割合が高くなっています。

図 3.9.3 公共施設の総量に対する考え

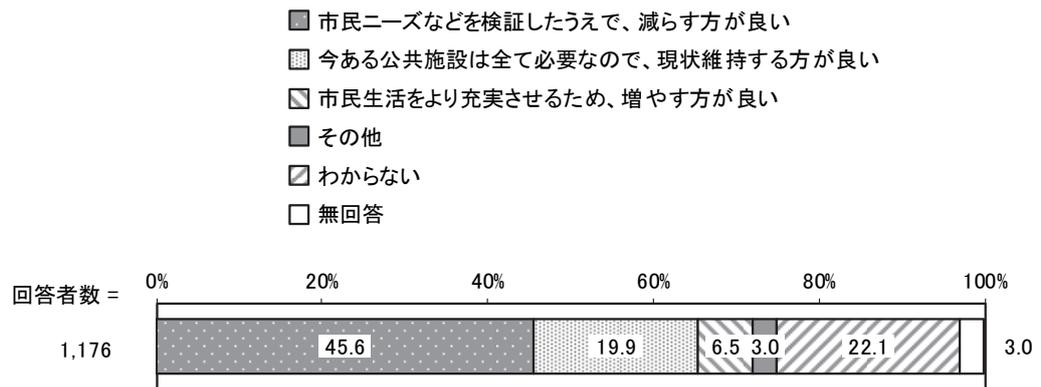
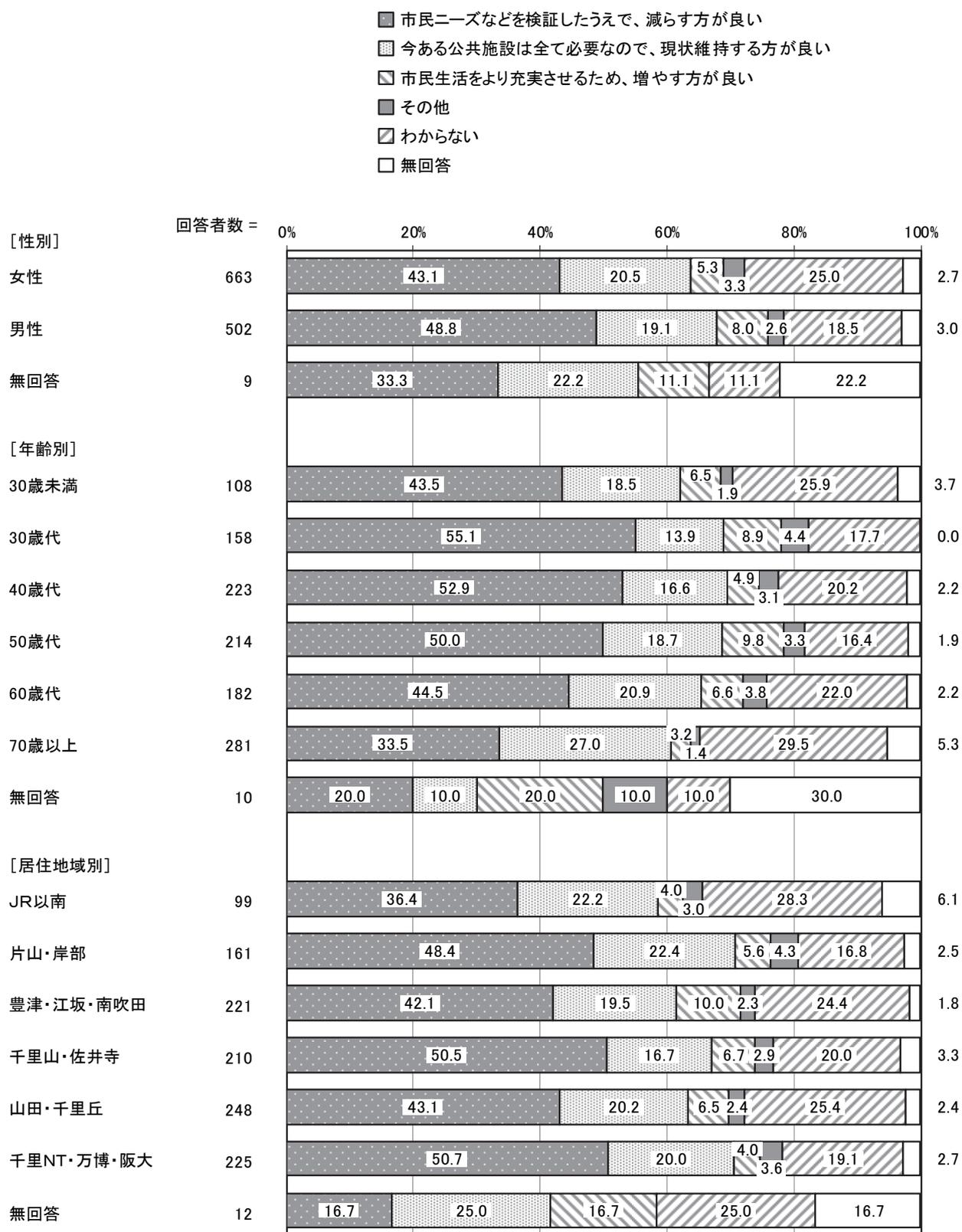


図 3.9.4 公共施設の総量に対する考え(性別・年齢別・居住地域別)



(2) 消費生活センターについて

(2)-1 消費生活センター設置場所の認知度

問 60. 消費生活センターが吹田市（JR吹田駅前「さんくす3番館」2階）にも設置されていることをご存じですか。（1つだけ○印）

消費生活センター設置場所の認知度（図 3.9.5）は、「市内にあることを知らなかった」の割合が 56.5%と最も高く、次いで「市内にあることは知っていたが、場所までは知らなかった」の割合が 25.2%、「市内のどこにあるかまで知っている」の割合が 16.5%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

性別（図 3.9.6）にみると、「市内にあることを知らなかった」では、女性（54.0%）より男性（60.4%）の方が 6.4 ポイント高くなっています。

年齢別にみると、「市内にあることを知らなかった」では、年齢層が上がるるとともに低くなり、70 歳以上（40.6%）が最も低くなっています。

居住地域別にみると、「市内のどこにあるかまで知っている」では、JR以南地域（38.4%）が最も高く、千里ニュータウン・万博・阪大地域（5.8%）が最も低くなっています。

職業別にみると、「市内のどこにあるかまで知っている」では、経営者、重役、役員（26.7%）が最も高くなっています。

居住年数別にみると、「市内のどこにあるかまで知っている」では、居住年数が長いほど高くなり、50 年以上（28.1%）が最も高くなっています。

図 3.9.5 消費生活センター設置場所の認知度

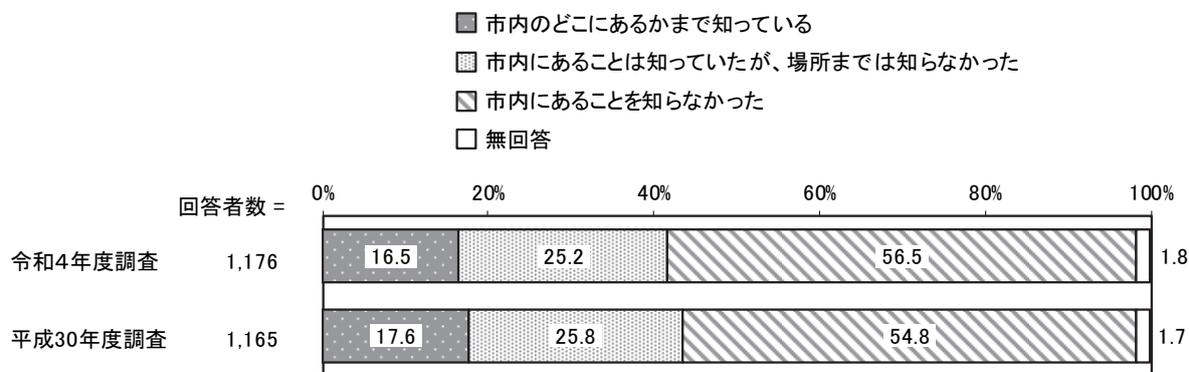
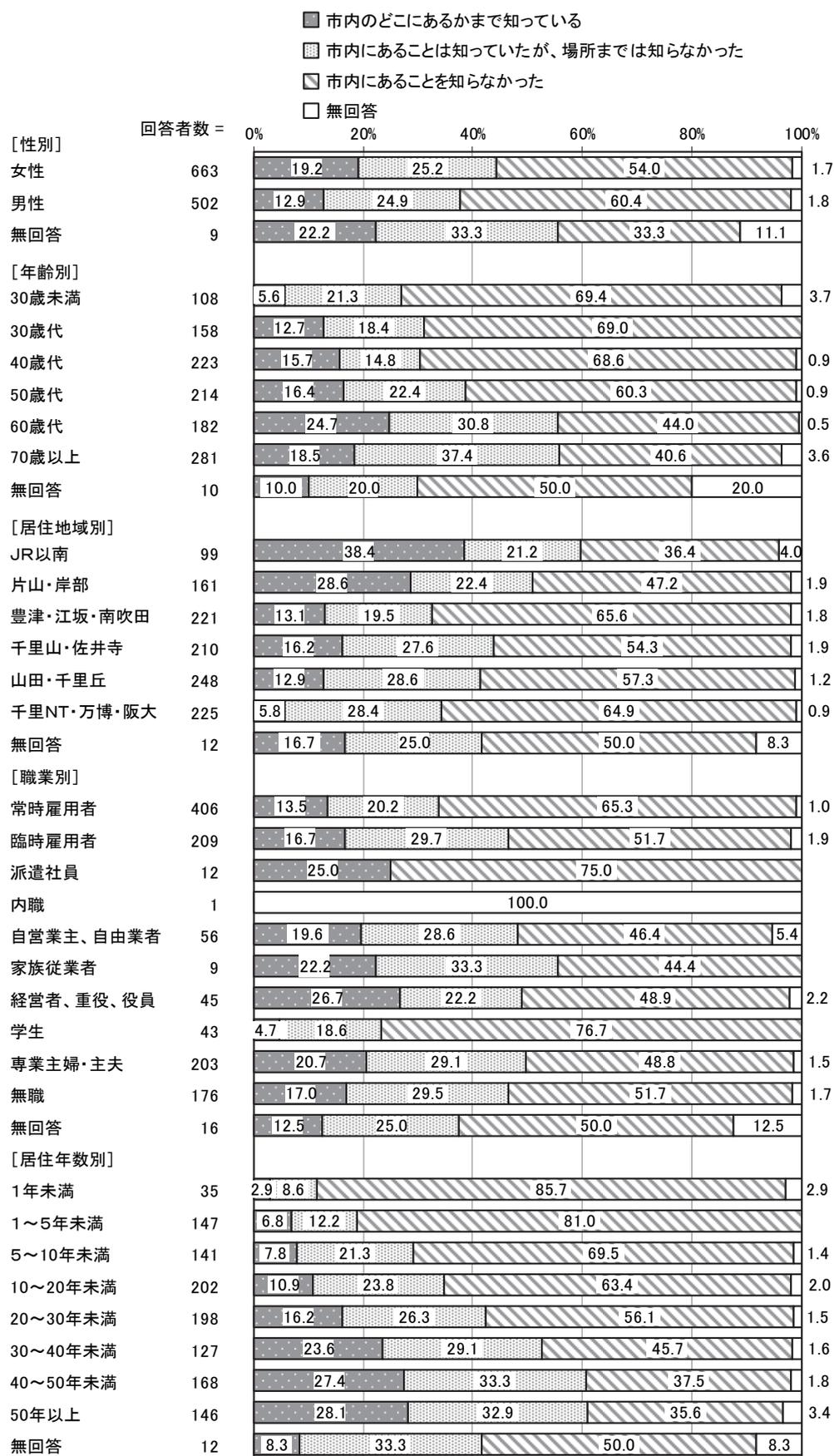


図 3.9.6 消費生活センター設置場所の認知度(性別・年齢別・居住地域別・職業別・居住年数別)



(2)-2 消費生活センター業務内容の認知度

問 61. 消費生活センターでは、商品の品質に対する疑問や苦情、悪質商法による契約トラブルなど、消費生活に関する様々な相談を受け付け、解決のためのアドバイスを行っています。あなたはこのことをご存じですか。(1つだけ○印)

消費生活センター業務内容の認知度(図 3.9.7)は、「知っている」の割合が 56.4%、「知らない」の割合が 41.8%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

性別(図 3.9.8)にみると、「知っている」は、男性(52.6%)より、女性(59.6%)の方が 7.0 ポイント高くなっています。

年齢別にみると、「知っている」は年齢層が上がるにつれ概ね高くなっています。

居住地域別にみると、「知らない」は J R 以南地域(37.4%)で最も低くなっています。

職業別にみると、「知っている」は専業主婦・主夫(63.1%)で最も高く、常時雇用者(48.5%)で最も低くなっています。

居住年数別にみると、「知っている」は居住年数が長いほど高くなり、50 年以上で 69.9%となっています。

図 3.9.7 消費生活センター業務内容の認知度

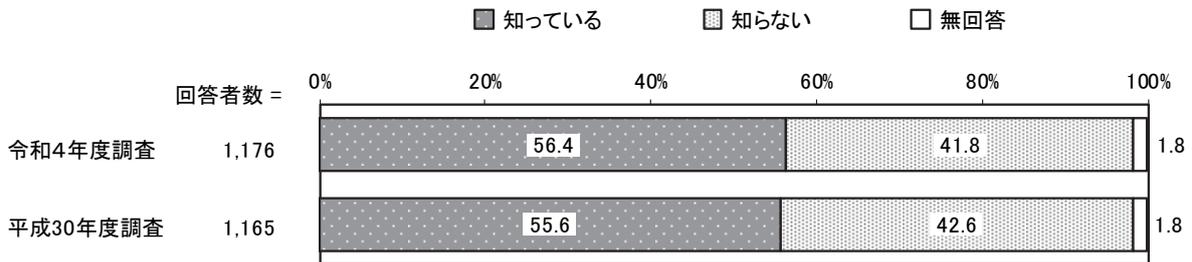
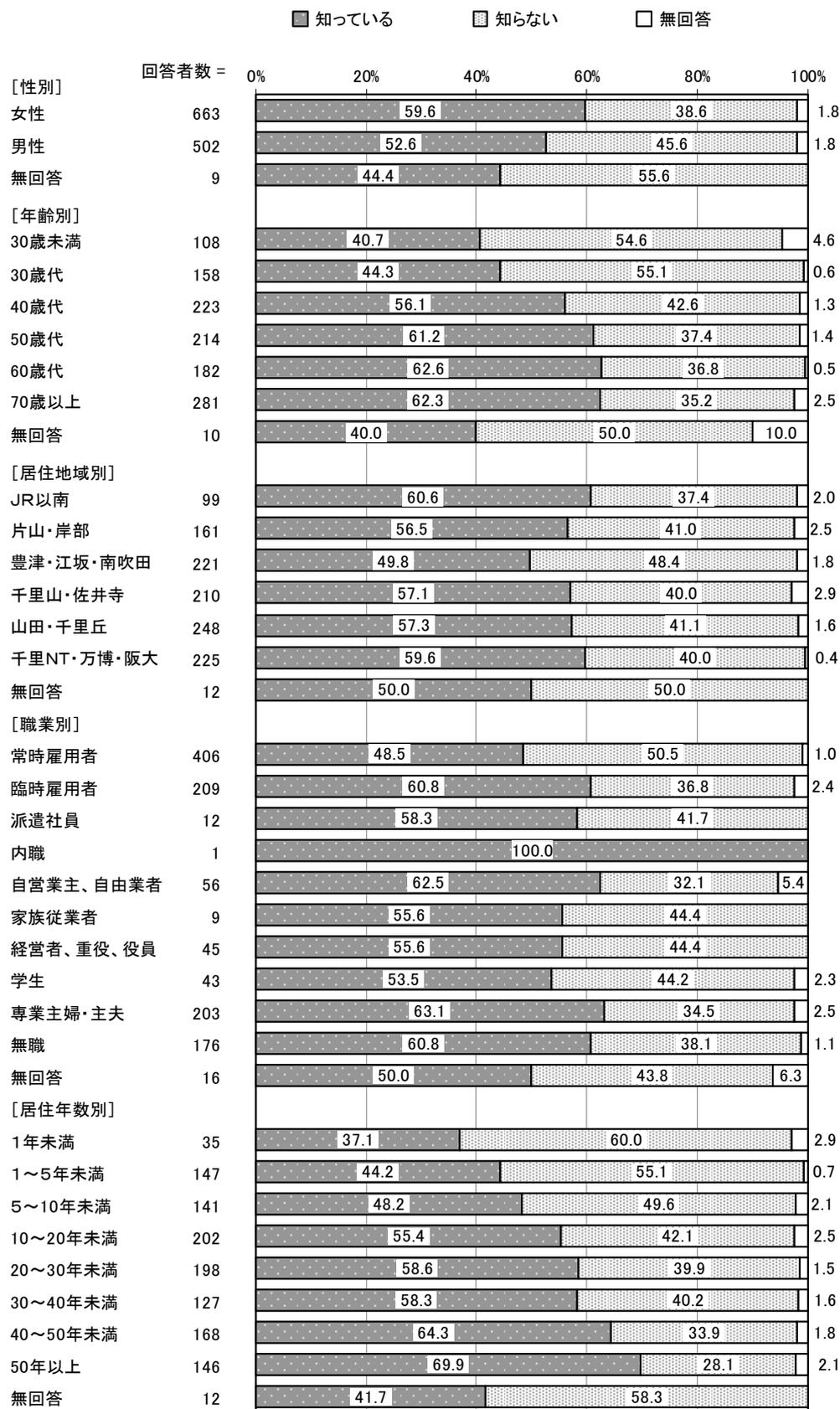


図 3.9.8 消費生活センター業務内容の認知度(性別・年齢別・居住地域別・職業別・居住年数別)



(3) 地区公民館について

(3)-1 地区公民館の利用状況

問 62. あなたは公民館を利用したことがありますか。(1つだけ○印)

地区公民館の利用状況(図3.9.9)は、「利用したことがある」の割合が37.2%、「利用したことがない」の割合が61.8%となっています。

平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

性別(図3.9.10)にみると、「利用したことがある」では、男性(31.3%)より女性(41.8%)の方が10.5ポイント高くなっています。

年齢別にみると、「利用したことがある」では、70歳以上(42.3%)が最も高くなっています。一方、30歳代(32.3%)が最も低くなっています。

居住地域別にみると、「利用したことがある」では、山田・千里丘地域(49.2%)が最も高くなっています。一方、豊津・江坂・南吹田地域(27.1%)が最も低くなっています。

職業別にみると、「利用したことがある」では、学生(55.8%)が最も高くなっています。一方、自営業主、自由業者(25.0%)が最も低くなっています。

居住年数別にみると、「利用したことがある」では、概ね居住年数が長いほど割合が高くなり、50年以上(48.6%)が最も高くなっています。

図 3.9.9 地区公民館の利用状況

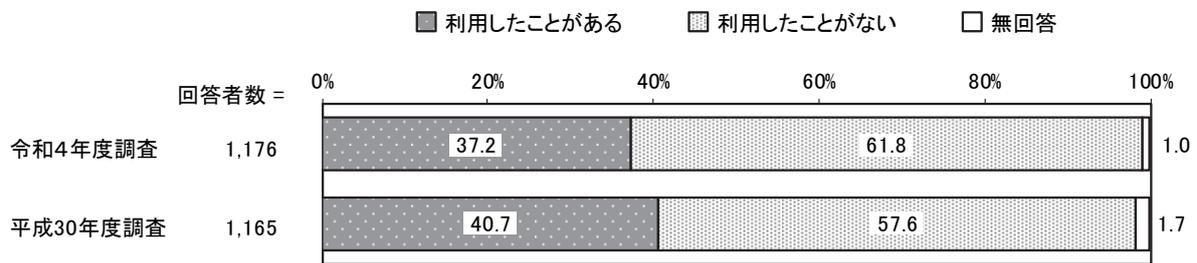
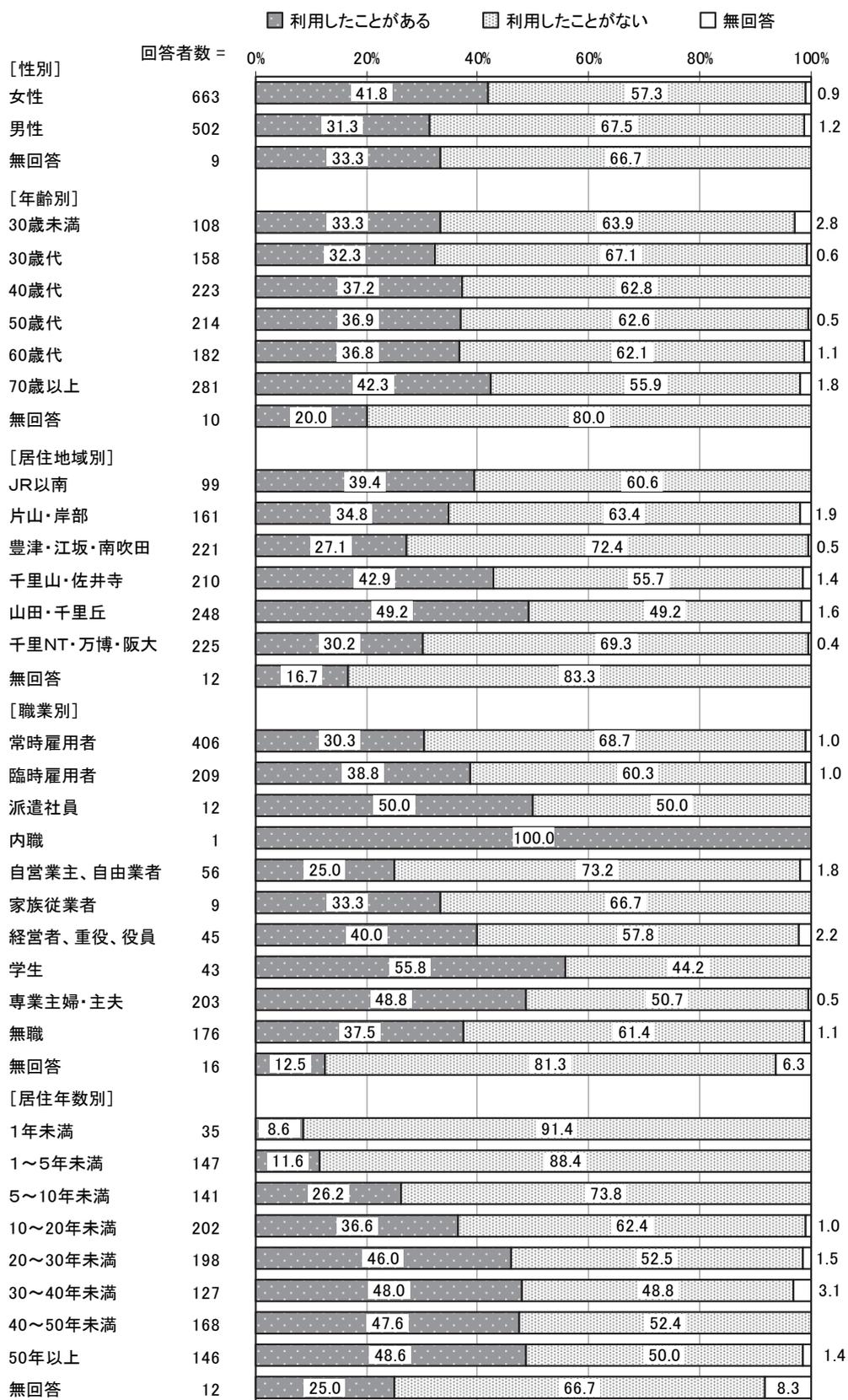


図 3.9.10 地区公民館の利用状況(性別・年齢別・居住地域別・職業別・居住年数別)



(3)-2 地区公民館の利用頻度

※副問は、問 62 で「利用したことがある」に○をした人のみお答えください。

副問 1 か月あたりどの程度利用されていますか。(1 つだけ○印)

地区公民館の利用頻度（図 3.9.11）は、「0～1回」の割合が 73.5%と最も高く、次いで「2～4回」の割合が 20.6%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「2～4回」は平成 30 年度調査（14.1%）より 6.5 ポイント高くなっています。

性別（図 3.9.12）にみると、2回以上では、男性（19.7%）より女性（27.0%）の割合が 7.3 ポイント高くなっています。

年齢別にみると、2回以上では、70歳以上（40.3%）が最も高くなっています。一方、40歳代（15.6%）が最も低くなっています。

居住地域別にみると、2回以上では、JR以南地域（28.2%）が最も高くなっています。一方、千里ニュータウン・万博・阪大地域（20.5%）が最も低くなっています。

職業別にみると、2回以上では、専業主婦・主夫（41.5%）が最も高くなっています。一方、臨時雇用者（11.1%）が最も低くなっています。

居住年数別にみると、2回以上では、50年以上（33.8%）が最も高くなっています。一方、5～10年未満（10.8%）が最も低くなっています。

図 3.9.11 地区公民館の利用頻度

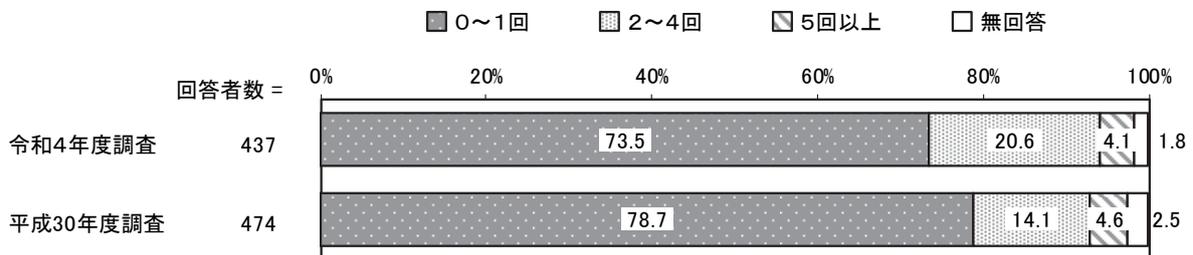
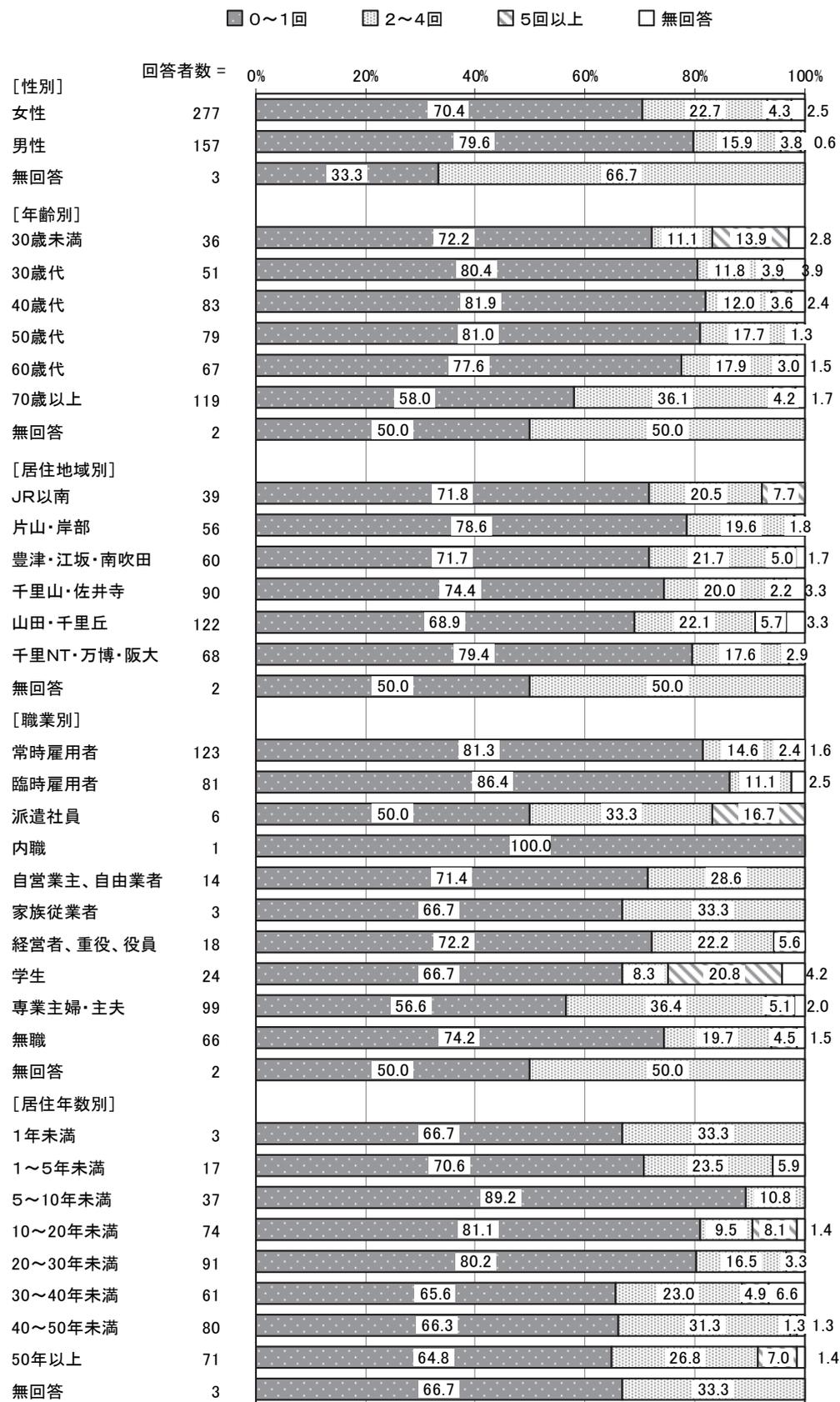


図 3.9.12 地区公民館の利用頻度(性別・年齢別・居住地域別・職業別・居住年数別)



(4) 吹田市情報発信プラザ (Inforest すいた) について

(4)-1 「吹田市情報発信プラザ (Inforest すいた)」の認知度

問 63. ららぽーとエキスポシティ内に設置している吹田市の情報発信拠点「吹田市情報発信プラザ (Inforest すいた)」を知っていますか。(1つだけ○印)

「吹田市情報発信プラザ (Inforest すいた)」の認知度 (図 3.9.13) は、「知っている」の割合が 35.0%、「知らない」の割合が 63.6%となっています。

性別 (図 3.9.14) にみると、「知っている」では、男性 (32.5%) より女性 (37.4%) の割合が 4.9 ポイント高くなっています。

年齢別にみると、「知っている」では、40 歳代 (51.1%) が最も高くなっています。一方、70 歳以上 (16.4%) が最も低くなっています。

居住地域別にみると、「知っている」では、山田・千里丘地域 (48.8%) が最も高くなっています。一方、JR以南地域 (16.2%) が最も低くなっています。

職業別にみると、「知っている」では、派遣社員 (50.0%) が最も高くなっています。一方、無職 (19.9%) が最も低くなっています。

居住年数別にみると、「知っている」では、10~20 年未満 (47.0%) が最も高くなっています。一方、1 年未満 (5.7%) が最も低くなっています。

図 3.9.13 「吹田市情報発信プラザ (Inforest すいた)」の認知度

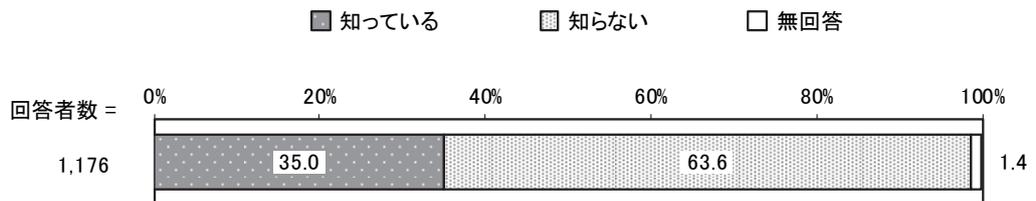
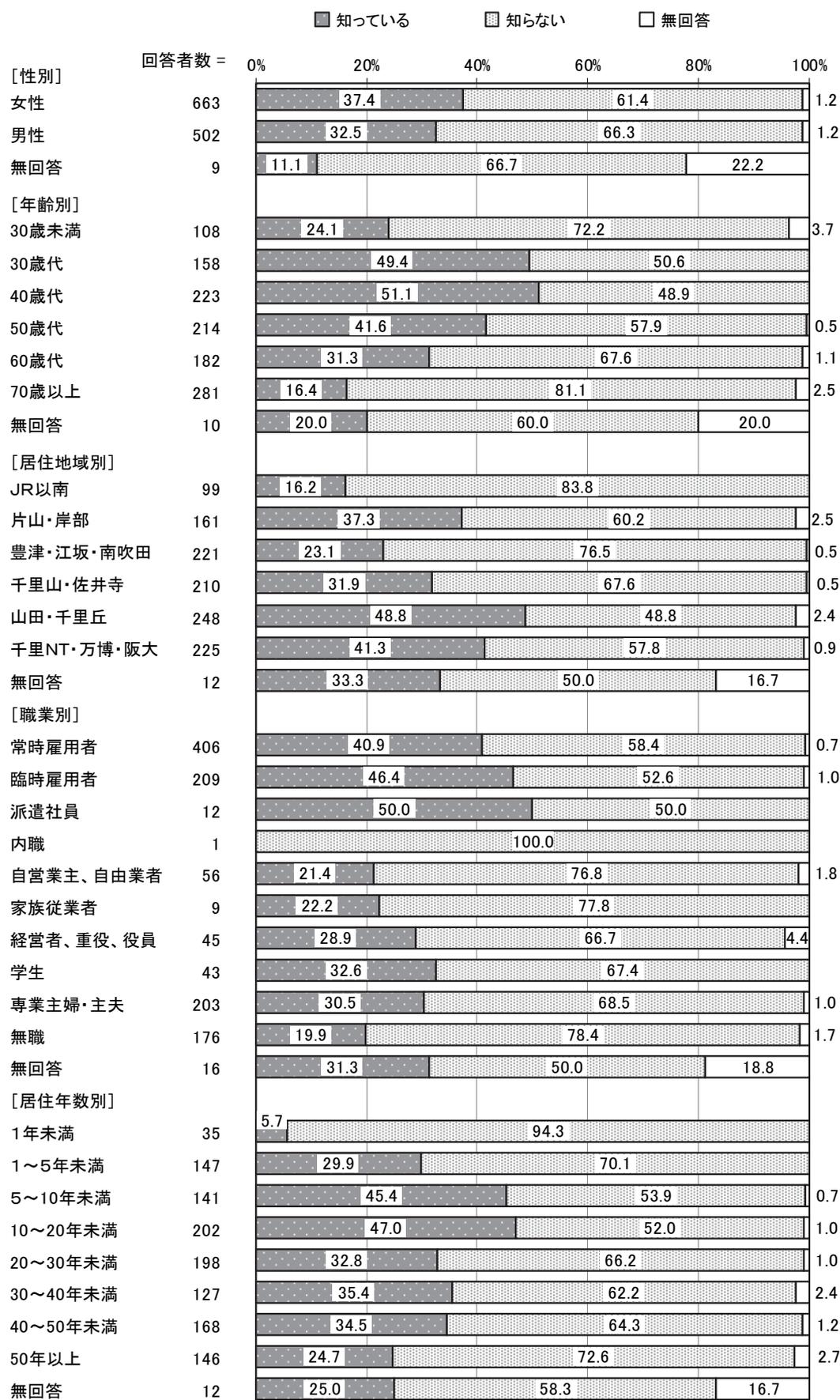


図 3.9.14 「吹田市情報発信プラザ(Inforest すいた)」の認知度(性別・年齢別・居住地域別・職業別・居住年数別)



(4)-2 吹田市情報発信プラザ (Inforest すいた) の利用有無

※副問は、問 63 で「知っている」に○をした人のみお答えください。

副問 吹田市情報発信プラザ (Inforest すいた) を訪れたことがありますか。
(1つだけ○印)

吹田市情報発信プラザ (Inforest すいた) の利用有無 (図 3.9.15) は、「ある」の割合が 47.8%、「ない」の割合が 50.0%となっています。

性別 (図 3.9.16) にみると、性別による大きな差異はみられません。

年齢別にみると、「ある」では、50 歳代 (55.1%) が最も高くなっています。一方、30 歳未満 (15.4%) が最も低くなっています。

居住地域別にみると、「ある」は、JR以南地域 (68.8%) が最も高くなっています。一方、豊津・江坂・南吹田地域 (35.3%) が最も低くなっています。

職業別にみると、「ある」は、専業主婦・主夫 (56.5%) が最も高くなっています。一方、学生 (14.3%) が最も低くなっています。

居住年数別にみると、「ある」は、5～10 年未満 (54.7%) が最も高くなっています。一方、1～5 年未満 (50.0%) が最も低くなっています。

図 3.9.15 吹田市情報発信プラザ (Inforest すいた) の利用有無

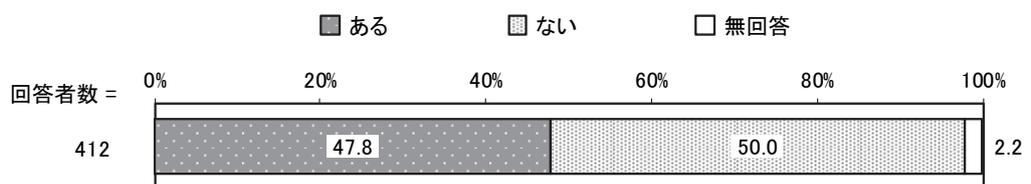
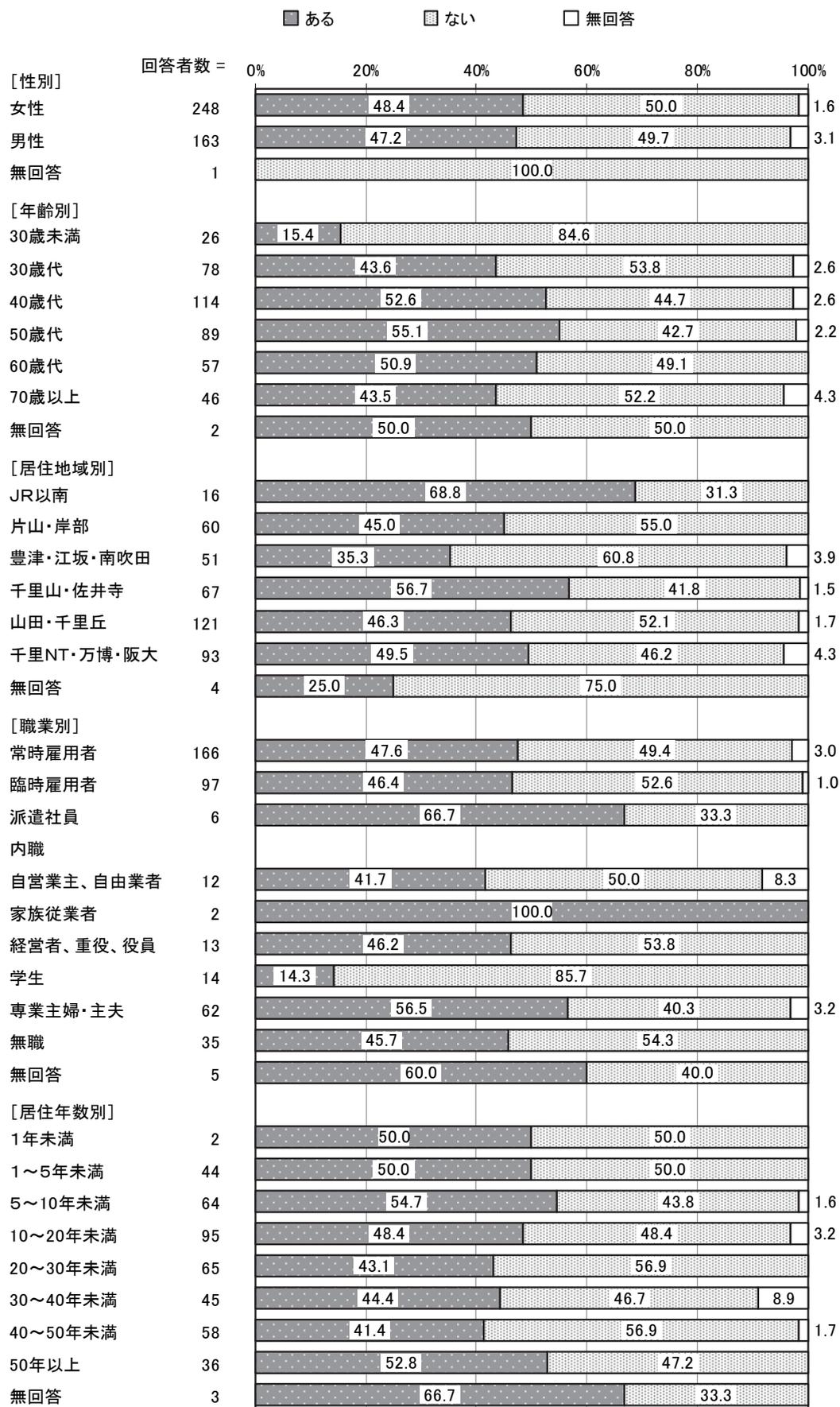


図 3.9.16 吹田市情報発信プラザ(Inforest すいた)の利用有無(性別・年齢別・居住地域別・職業別・居住年数別)



(5) すいたんについて

(5)-1 すいたんの認知度

問 64. 吹田市イメージキャラクターすいたんを知っていますか。(1つだけ○印)

すいたんの認知度(図 3.9.17)は、「知っている」の割合が 81.8%、「知らない」の割合が 16.7% となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「知っている」は、平成 30 年度調査(75.5%)より、令和 4 年度調査(81.8%)は 6.3 ポイント高くなっています。

性別(図 3.9.18)にみると、「知っている」では、男性(77.5%)より女性(85.1%)の方が割合が高くなっています。

年齢別にみると、「知っている」では、40 歳代(93.7%)が最も高く、40 歳代以上では年齢層が上がるとともに割合が低くなり、70 歳以上(70.1%)が最も低くなっています。

居住地域別にみると、「知っている」では、片山・岸部地域(84.5%)が最も高くなっています。一方、豊津・江坂・南吹田地域(76.9%)が最も低くなっています。

職業別にみると、「知っている」では、派遣社員(100.0%)が最も高くなっています。

図 3.9.17 すいたんの認知度(経年比較)

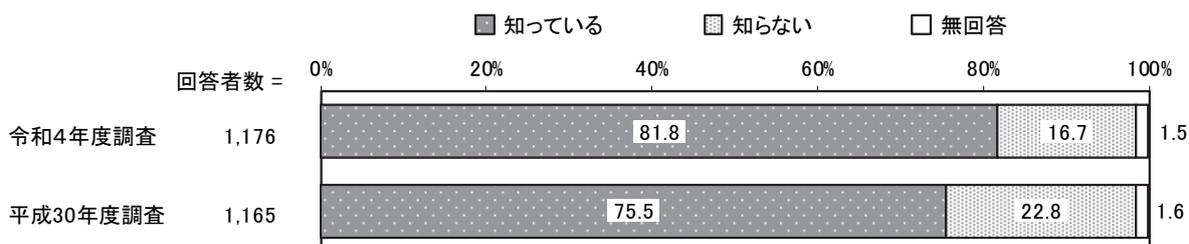
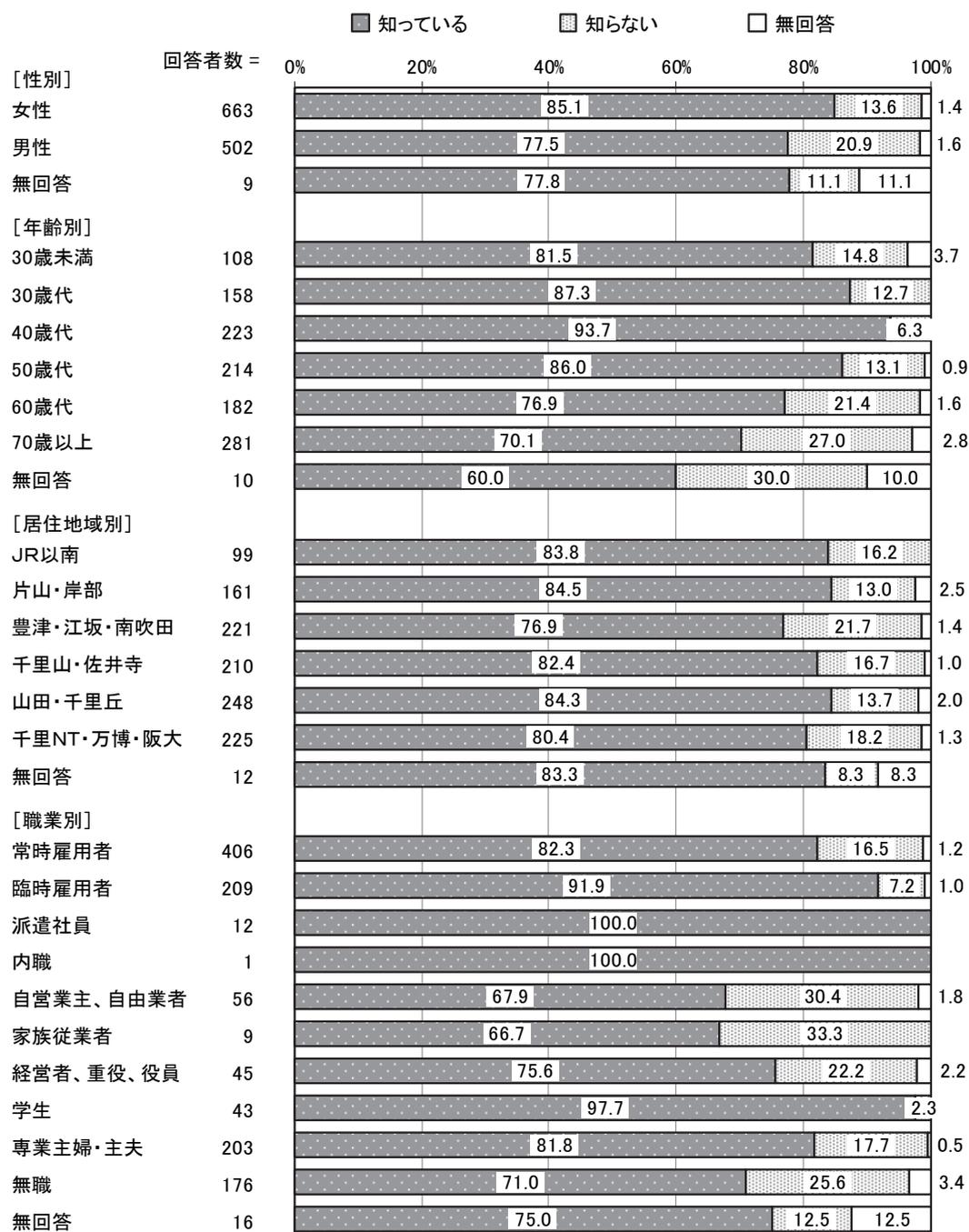


図 3.9.18 すいたんの認知度(性別・年齢別・居住地域別・職業別)



(5)-2 すいたんの印象

※副問は、問 64 で「知っている」に○をした人のみお答えください。

副問 すいたんをどのように感じていますか。(1つだけ○印)

すいたんの印象(図 3.9.19)は、「好き」の割合が 55.2%と最も高く、次いで「興味がない」の割合が 41.1%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

性別(図 3.9.20)にみると、女性では「好き」(61.7%)が最も高く、男性では「興味がない」(49.9%)が最も高くなっています。

年齢別にみると、「好き」では、30歳未満(63.6%)が最も高くなっています。一方、「興味がない」では、50歳代(47.3%)が最も高くなっています。

居住地域別にみると、「好き」では、JR以南地域(59.0%)が最も高くなっています。一方、「興味がない」では、山田・千里丘地域(45.9%)が最も高くなっています。

職業別にみると、「好き」では、派遣社員(75.0%)が最も高くなっています。一方、「興味がない」では、自営業主、自由業者(52.6%)が最も高くなっています。

図 3.9.19 すいたんの印象(経年比較)

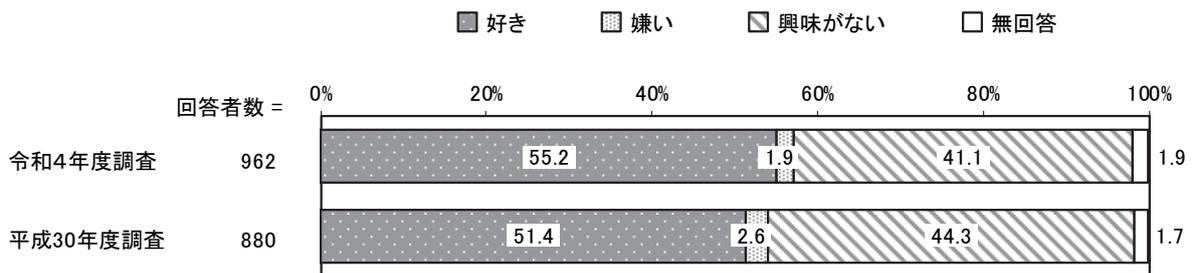
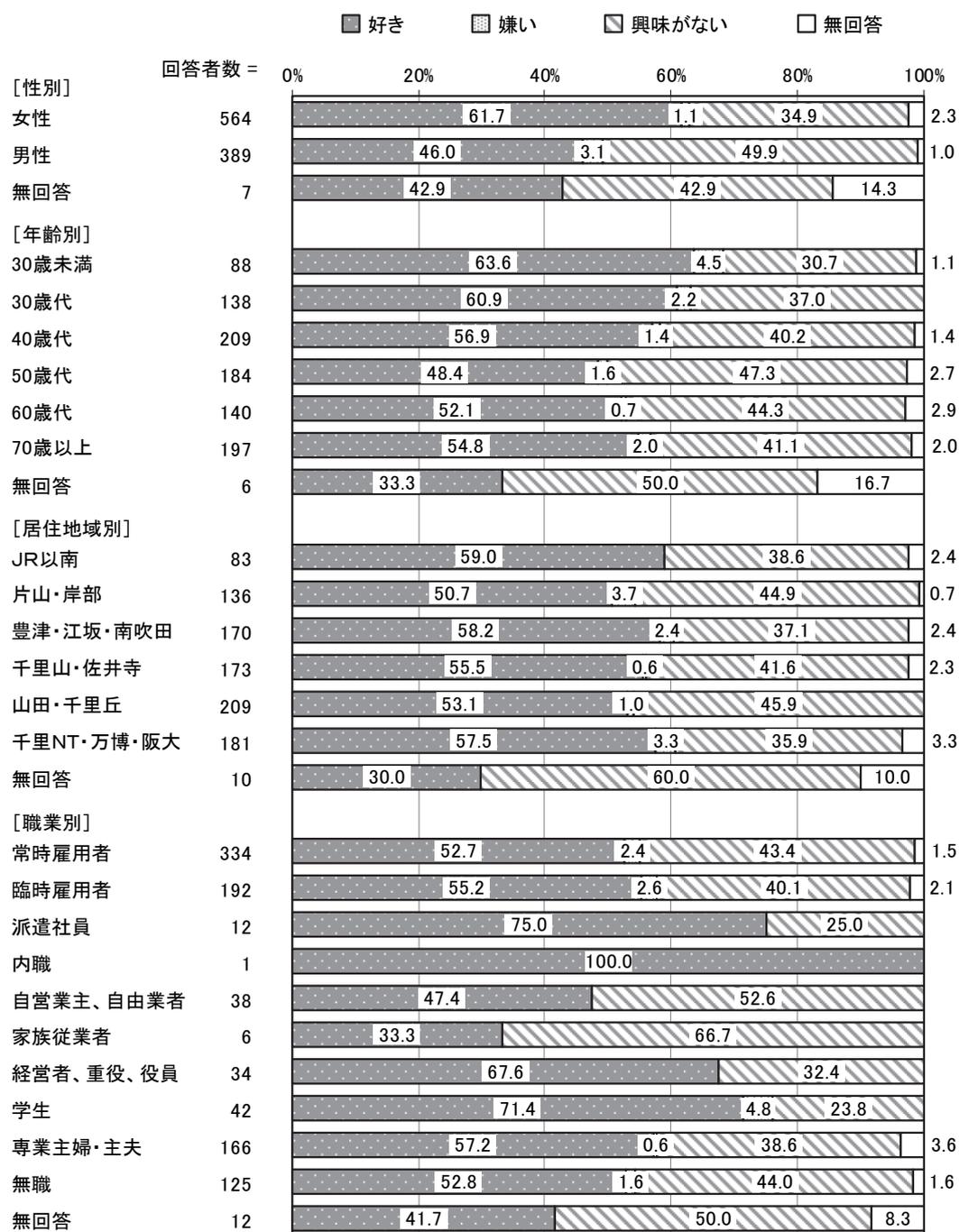


図 3.9.20 すいたんの印象(性別・年齢別・居住地域別・職業別)



(6) すいたフェスタについて

(6)-1 すいたフェスタに求めること

問 65. 「すいたフェスタ（旧：吹田まつり）」は昭和 45 年（1970 年）に始まった市民まつりです。あなたが、すいたフェスタ（旧：吹田まつり）」に求めることは何ですか。（いくつでも○印）

すいたフェスタに求めること（図 3.9.21）「まつりを通した地域活動などの活性化」の割合が 43.7%と最も高く、次いで「地域の様々な世代が集い、交流する場」の割合が 35.2%、「地域活動とは関係なく、みんなが楽しむ場」の割合が 33.7%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「地域活動とは関係なく、みんなが楽しむ場」の割合が増加しています。一方、「特に求めない」の割合が減少しています。

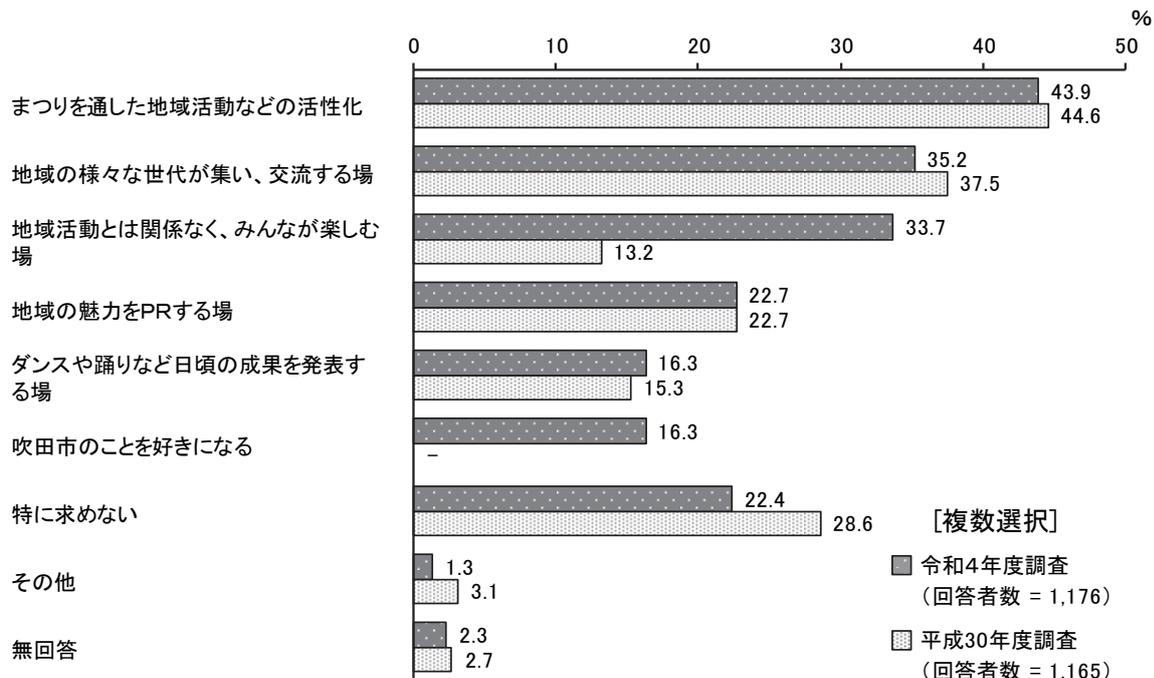
性別（表 3.9.3）にみると、「まつりを通した地域活動などの活性化」が女性（44.6%）、男性（43.4%）ともに最も高くなっています。また、「地域の様々な世代が集い、交流する場」は、男性（30.1%）より、女性（39.2%）の方が 9.1 ポイント高くなっています。

年齢別にみると、30 歳代以下で「地域活動とは関係なく、みんなが楽しむ場」が最も高くなっている一方、40 歳代以上では「まつりを通した地域活動などの活性化」が最も高くなっています。また、「特に求めない」では、30 歳未満（26.9%）が最も高くなっています。

居住地域別にみると、全地域で「まつりを通した地域活動などの活性化」が最も高くなっています。また、「地域の様々な世代が集い、交流する場」は千里山・佐井寺地域（41.0%）で最も高くなっています。

職業別にみると、「まつりを通した地域活動などの活性化」では、専業主婦・主夫（49.8%）が最も高くなっています。

図 3.9.21 すいたフェスタに求めること(経年比較)



※「吹田市のことを好きになる」は令和4年度から追加

表 3.9.3 すいたフェスタに求めること(性別・年齢別・居住地域別・職業別・居住年数別・定住意向別)

単位：％

区分	回答者数(人)	まつりを通じた地域活動などの活性化	地域の様々な世代が集い、交流する場	地域の魅力をPRする場	ダンスや踊りなど日頃の成果を発表する場	んなが楽しむ場	地域活動とは関係なく、みる吹田市のことを好きになる	特に求めない	その他	無回答	
全体	1,176	43.7	35.2	22.7	16.3	33.7	16.3	22.4	1.3	2.3	
性別	女性	663	44.6	39.2	22.2	18.4	35.9	14.6	20.8	1.2	2.0
	男性	502	43.4	30.1	23.3	13.5	31.1	18.7	24.7	1.4	2.4
	その他	2	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	無回答	9	22.2	22.2	33.3	22.2	22.2	11.1	11.1	0.0	22.2
年齢別	30歳未満	108	32.4	23.1	18.5	13.7	37.0	13.7	26.9	2.8	3.7
	30歳代	158	35.4	27.8	17.1	18.4	40.5	17.7	26.6	0.6	0.0
	40歳代	223	45.3	38.6	22.9	21.1	37.2	19.7	21.1	2.2	0.0
	50歳代	214	52.8	37.9	22.4	15.9	29.0	15.4	17.3	0.9	1.4
	60歳代	182	44.5	38.5	24.7	14.8	29.1	17.0	20.9	1.6	2.2
	70歳以上	281	45.6	37.7	26.3	13.7	33.1	14.2	23.8	0.4	5.0
	無回答	10	20.0	20.0	20.0	10.0	10.0	10.0	40.0	0.0	20.0
居住地域別	JR以南	99	42.4	36.4	24.2	19.2	36.4	15.2	20.2	1.0	0.0
	片山・岸部	161	46.0	30.4	21.1	17.4	31.7	17.4	23.6	1.2	3.7
	豊津・江坂・南吹田	221	41.6	33.0	21.3	14.5	38.5	14.9	24.0	0.9	1.4
	千里山・佐井寺	210	47.1	41.0	23.8	17.1	35.7	17.6	18.6	2.9	1.9
	山田・千里丘	248	43.5	35.9	23.8	19.4	27.4	16.1	22.6	0.4	4.0
	千里NT・万博・阪大	225	43.6	34.7	22.2	12.4	35.1	16.9	24.0	1.3	0.9
	無回答	12	25.0	25.0	25.0	8.3	16.7	8.3	33.3	0.0	16.7
職業別	常時雇用者	406	42.9	31.8	20.2	16.0	31.5	18.5	24.6	1.7	1.0
	臨時雇用者	209	46.4	37.3	24.4	13.4	36.4	13.7	19.1	0.5	1.0
	派遣社員	12	41.7	33.3	8.3	50.0	25.0	8.3	16.7	0.0	0.0
	内職	1	100.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	自営業主、自由業者	56	42.9	41.1	26.8	19.6	33.7	12.5	25.0	3.6	5.4
	家族従業者	9	66.7	22.2	22.2	0.0	44.4	0.0	11.1	0.0	0.0
	経営者、重役、役員	45	46.7	31.1	22.2	20.0	26.7	20.0	20.0	0.0	2.2
	学生	43	37.2	23.3	23.3	16.3	39.5	14.0	25.6	2.3	0.0
	専業主婦・主夫	203	49.8	45.8	24.1	19.2	40.4	13.8	15.3	0.5	3.0
	無職	176	38.6	31.8	24.4	14.8	30.1	19.3	29.0	1.7	4.5
無回答	16	18.8	25.0	25.0	6.3	6.3	18.8	31.3	0.0	18.8	
居住年数別	1年未満	35	37.1	25.7	17.1	8.6	37.1	14.3	34.3	0.0	2.9
	1～5年未満	147	38.8	29.9	19.7	12.9	31.3	23.8	29.9	1.4	0.0
	5～10年未満	141	42.6	31.9	27.7	17.7	36.9	19.1	17.0	2.1	1.4
	10～20年未満	202	43.6	35.1	23.3	21.3	35.6	12.9	18.8	1.5	1.0
	20～30年未満	198	44.4	35.4	21.2	15.7	28.3	12.1	19.7	1.5	3.0
	30～40年未満	127	39.4	39.4	18.9	15.0	37.0	15.0	24.4	0.8	3.1
	40～50年未満	168	49.4	41.7	25.6	17.3	38.7	22.0	21.4	1.8	1.2
	50年以上	146	49.3	35.6	24.0	14.4	30.1	11.6	24.0	0.0	5.5
	無回答	12	41.7	25.0	16.7	16.7	8.3	16.7	41.7	0.0	16.7
定住意向別	住み続ける	722	47.2	36.7	24.8	17.2	35.2	17.6	18.8	0.7	1.9
	たぶん住み続ける	131	38.2	33.6	16.0	11.5	33.6	14.5	29.8	1.5	2.3
	たぶん引っ越す	136	44.1	33.1	25.7	16.9	29.4	17.6	21.3	2.2	2.2
	引っ越す	42	33.3	26.2	16.7	14.3	33.3	19.0	35.7	7.1	0.0
	わからない	136	34.6	33.1	17.6	16.9	30.9	9.6	31.6	1.5	3.7
	無回答	9	44.4	44.4	11.1	11.1	22.2	11.1	22.2	0.0	22.2

(6)-2 すいたフェスタへの参加有無

問 66. すいたフェスタ（旧：吹田まつり）に参加したことがありますか。
（1つだけ○印）

すいたフェスタへの参加有無（図 3.9.22）は、「ある」の割合が 33.3%、「ない」の割合が 65.6% となっています。

性別（図 3.9.23）にみると、参加したことが「ある」は、男性（27.7%）より、女性（37.7%）の方が 10.0 ポイント高くなっています。また、女性・男性ともに参加したことがある人は、参加したことがない人より低くなっています。

年齢別にみると、参加したことが「ある」は 40 歳代（42.6%）が最も高く、70 歳以上（26.3%）で最も低くなっています。

居住地域別にみると、参加したことが「ある」は片山・岸部地域（41.0%）が最も高く、千里ニュータウン・万博・阪大地域（24.0%）が最も低くなっています。

職業別にみると、参加したことが「ある」は学生（58.1%）が最も高くなっています。

居住年数別にみると、参加したことが「ある」は 10～20 年未満（42.1%）が最も高くなっています。

世帯人員別にみると、概ね世帯人員が多くなるほど「ある」が高くなる傾向がみられます。

図 3.9.22 すいたフェスタへの参加有無

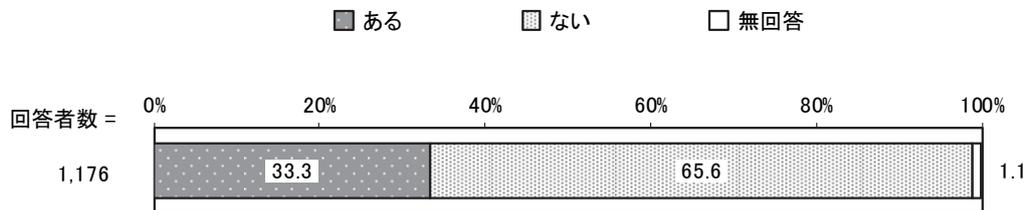
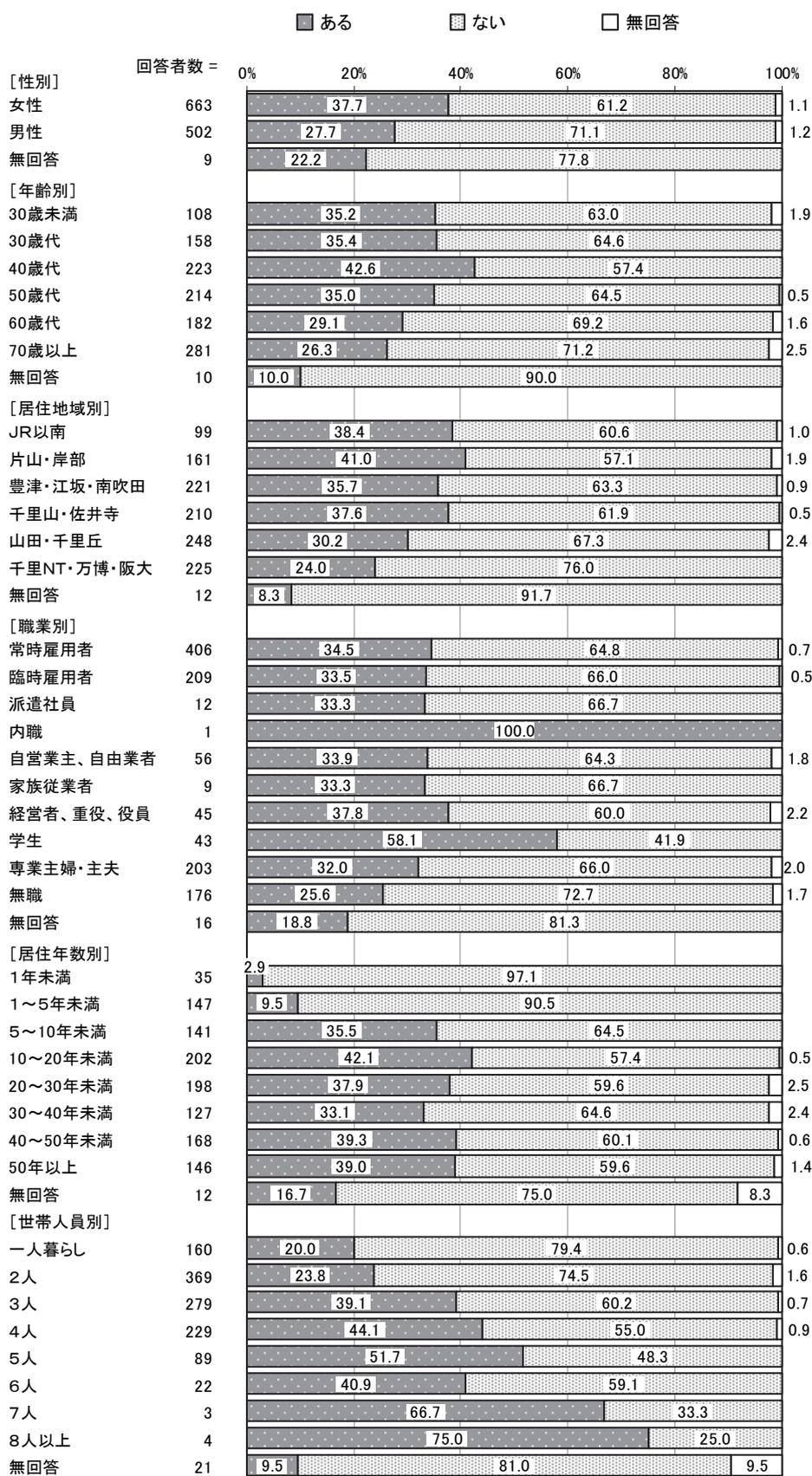


図 3.9.23 すいたフェスタへの参加有無(性別・年齢別・居住地域別・職業別・居住年数別・世帯人員別)



(6)-3 すいたフェスタへ参加しなかった理由

※副問は、問 66 で「ない」に○をした人のみお答えください。

副問 すいたフェスタ（旧：吹田まつり）に参加しなかった理由は何ですか。
（いくつでも○印）

すいたフェスタへ参加しなかった理由（図 3.9.24）は、「興味がない」の割合が 31.9%と最も高く、次いで「すいたフェスタ（旧：吹田まつり）の開催日程を知らない」の割合が 20.6%、「ほかに用事があったため」の割合が 18.2%となっています。

性別（表 3.9.4）にみると、「交通手段がないため」は男性（2.8%）よりも、女性（8.4%）の方が 5.6 ポイント高くなっています。

年齢別にみると、30 歳代以下では「すいたフェスタの開催日程を知らない」が最も高く、40 歳代以上では「興味がない」が最も高くなっています。

居住地域別にみると、「ほかに用事があったため」が J R 以南地域（26.7%）で最も高く、それ以外の地域では「興味がない」が最も高くなっています。

職業別にみると、「興味がない」は自営業主、自由業者（44.4%）が最も高くなっています。

居住年数別にみると、10 年未満では「すいたフェスタの開催日程を知らない」が高く、10 年以上では「興味がない」が最も高くなっています。

世帯人員別にみると、5 人以下で「興味がない」が最も高く、なかでも一人暮らし（38.6%）が最も高くなっています。また、5 人では「仕事または学業のため」が同率で最も高くなっています。

図 3.9.24 すいたフェスタへ参加しなかった理由

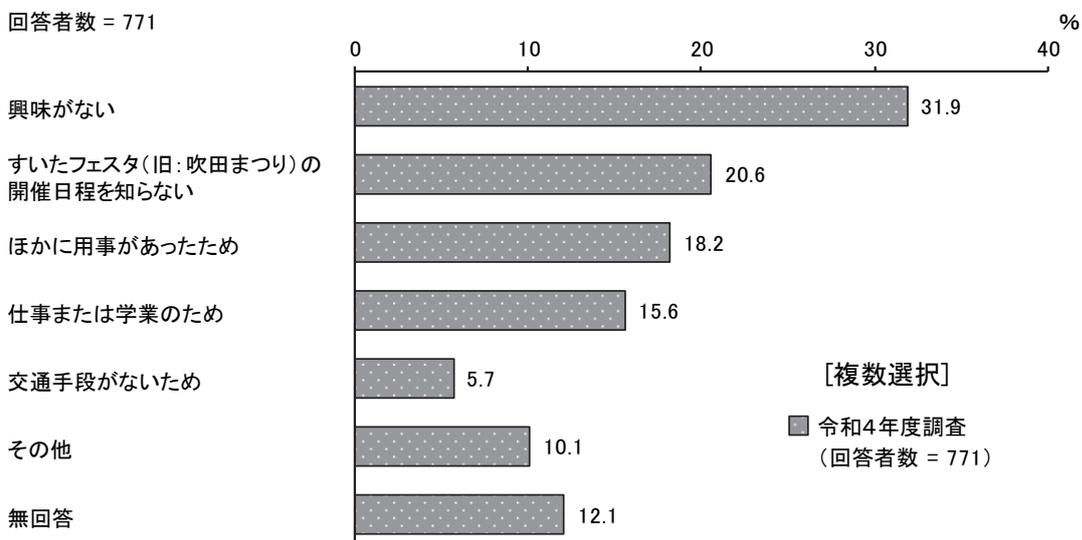


表 3.9.4 すいたフェスタへ参加しなかった理由(性別・年齢別・居住地域別・職業別・居住年数別)

単位：%

区分		回答者数 (人)	仕事または学業の ため	交通手段がないため	興味がない	すいたフェスタの 開催日程を知らない	ほかに用事があった ため	その他	無回答
全 体		771	15.6	5.7	31.9	20.6	18.2	10.1	12.1
性別	女性	406	15.8	8.4	29.6	20.4	16.5	12.8	11.6
	男性	357	15.4	2.8	33.7	20.7	20.2	7.3	12.0
	その他	1	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	無回答	7	14.3	0.0	57.1	14.3	14.3	0.0	42.9
年齢別	30歳未満	68	14.7	1.5	23.5	26.5	7.4	8.8	23.5
	30歳代	102	18.6	2.0	27.5	40.2	16.7	7.8	9.8
	40歳代	128	18.8	7.0	26.6	17.2	18.8	10.2	14.1
	50歳代	138	20.3	4.3	28.3	18.8	20.3	5.1	13.8
	60歳代	126	17.5	6.3	36.5	11.9	17.5	17.5	11.1
	70歳以上	200	8.0	9.0	38.5	17.5	21.5	11.0	6.5
	無回答	9	11.1	0.0	66.7	22.2	11.1	0.0	33.3
	居住地域別	J R以南	60	15.0	3.3	25.0	8.3	26.7	15.0
片山・岸部	92	15.2	4.3	39.1	20.7	13.0	9.8	12.0	
豊津・江坂・南吹田	140	15.7	0.7	32.9	21.4	17.1	7.1	16.4	
千里山・佐井寺	130	16.2	10.0	26.2	24.6	23.1	8.5	11.5	
山田・千里丘	167	16.2	8.4	35.9	20.4	13.8	13.2	7.2	
千里NT・万博・阪大	171	15.2	5.8	28.7	21.6	19.3	9.4	11.1	
無回答	11	9.1	0.0	54.5	18.2	18.2	9.1	27.3	
職業別	常時雇用者	263	20.9	2.3	27.4	24.0	15.6	4.9	17.1
	臨時雇用者	138	21.7	10.1	29.0	15.2	23.2	11.6	10.1
	派遣社員	8	12.5	0.0	25.0	12.5	25.0	12.5	12.5
	内職	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	自営業主、自由業者	36	13.7	2.8	44.4	19.4	2.8	11.1	13.7
	家族従業者	6	33.3	0.0	50.0	0.0	33.3	0.0	16.7
	経営者、重役、役員	27	33.3	3.7	29.6	14.8	14.8	0.0	7.4
	学生	18	22.2	11.1	27.8	22.2	5.6	11.1	11.1
	専業主婦・主夫	134	2.2	9.0	33.6	20.1	20.9	14.2	9.0
	無職	128	7.8	6.3	36.7	21.9	21.9	18.0	6.3
	無回答	13	7.7	0.0	61.5	30.8	7.7	0.0	23.1
居住年数別	1年未満	34	2.9	0.0	20.6	17.6	5.9	26.5	26.5
	1～5年未満	133	12.0	2.3	21.1	37.6	12.8	12.0	13.5
	5～10年未満	91	23.1	5.5	26.4	34.1	20.9	4.4	9.9
	10～20年未満	116	21.6	7.8	29.3	15.5	15.5	8.6	14.7
	20～30年未満	118	15.3	4.2	37.3	15.3	18.6	6.8	10.2
	30～40年未満	82	19.5	11.0	36.6	11.0	25.6	14.6	7.3
	40～50年未満	101	7.9	6.9	42.6	11.9	22.8	12.9	8.9
	50年以上	87	14.9	5.7	36.8	13.8	19.5	6.9	13.8
	無回答	9	22.2	11.1	44.4	33.3	11.1	0.0	11.1
世帯人員別	一人暮らし	127	17.3	7.9	38.6	16.5	13.4	11.8	11.0
	2人	275	10.5	5.5	30.5	23.6	20.0	9.5	12.0
	3人	168	17.3	3.6	30.4	17.9	21.4	11.9	10.7
	4人	126	16.7	7.1	32.5	21.4	15.9	10.3	14.3
	5人	43	27.9	7.0	27.9	20.9	14.0	2.3	14.0
	6人	13	23.1	0.0	7.7	15.4	30.8	15.4	15.4
	7人	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	8人以上	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	無回答	17	23.5	5.9	47.1	29.4	11.8	0.0	5.9

(7) 吹田サッカースタジアムの入場経験

問 67. あなたは、市立吹田サッカースタジアムに入場したことはありますか。
(いくつでも○印)

吹田サッカースタジアムの入場経験 (図 3.9.25) は、「入場したことがない」の割合が 77.2% と最も高く、次いで「サッカーの試合観戦で入場」の割合が 19.0% となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

性別 (表 3.9.5) にみると、女性・男性ともに「入場したことがない」が最も高くなっています。

年齢別にみると、「サッカーの試合観戦で入場」では、40 歳代 (26.9%) が最も高くなっています。また、「その他で入場」では、30 歳未満 (11.1%) が最も高くなっています。

居住地域別にみると、「サッカーの試合観戦で入場」では、山田・千里丘地域 (29.0%) が最も高く、次いで、千里山・佐井寺地域 (22.4%) となっています。

職業別にみると、「サッカーの試合観戦で入場」では、学生 (30.2%) が最も高く、次いで、臨時雇用者 (23.4%) となっています。

居住年数別にみると、「サッカーの試合観戦で入場」では、10～20 年未満 (28.2%) が最も高く、1 年未満 (8.6%) が最も低くなっています。

定住意向別にみると、「サッカーの試合観戦で入場」では、引っ越す (21.4%) が最も高くなっています。

図 3.9.25 吹田サッカースタジアムの入場経験(経年比較)

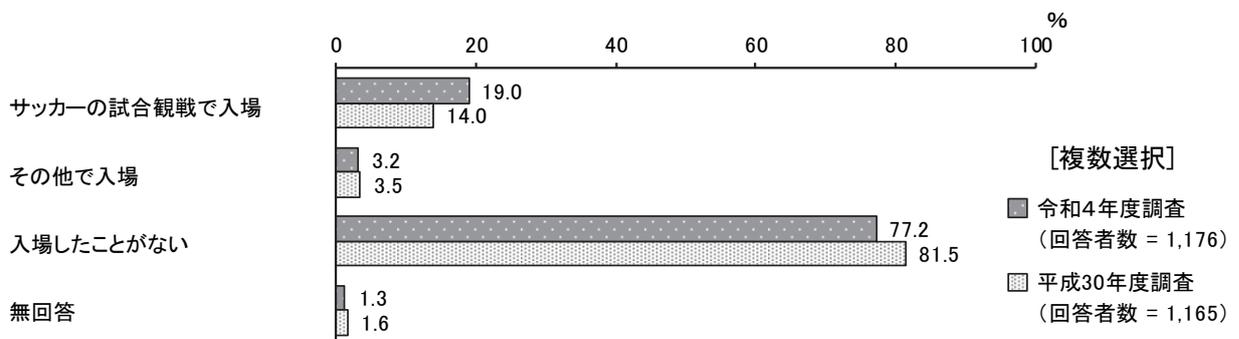


表 3.9.5 吹田サッカースタジアムの入場経験(性別・年齢別・居住地域別・職業別・居住年数別・定住意向別)

単位：%

区分		回答者数 (人)	サッカーの試合観戦 で入場	その他で入場	入場したことがない	無回答
全 体		1176	19.0	3.2	77.2	1.3
性別	女性	663	18.7	3.0	78.0	1.1
	男性	502	19.3	3.6	76.7	1.2
	その他	2	0.0	0.0	100.0	0.0
	無回答	9	33.3	0.0	44.4	22.2
年齢別	30歳未満	108	20.4	11.1	68.5	1.9
	30歳代	158	23.4	1.3	75.3	0.6
	40歳代	223	26.9	4.5	70.4	0.4
	50歳代	214	19.2	2.3	78.5	0.5
	60歳代	182	13.7	2.7	82.4	1.1
	70歳以上	281	13.2	1.4	83.3	2.1
	無回答	10	20.0	0.0	60.0	20.0
居住地域別	J R以南	99	9.1	2.0	88.9	0.0
	片山・岸部	161	14.3	2.5	81.4	1.9
	豊津・江坂・南吹田	221	14.9	2.3	81.4	1.4
	千里山・佐井寺	210	22.4	2.9	74.8	1.0
	山田・千里丘	248	29.0	4.8	65.7	2.0
	千里NT・万博・阪大	225	16.9	4.0	80.4	0.0
	無回答	12	16.7	0.0	66.7	16.7
職業別	常時雇用者	406	21.9	3.0	74.6	1.2
	臨時雇用者	209	23.4	2.4	74.6	0.5
	派遣社員	12	8.3	8.3	91.7	0.0
	内職	1	0.0	0.0	100.0	0.0
	自営業主、自由業者	56	16.1	1.8	80.4	1.8
	家族従業者	9	22.2	0.0	77.8	0.0
	経営者、重役、役員	45	15.6	4.4	77.8	2.2
	学生	43	30.2	20.9	53.5	0.0
	専業主婦・主夫	203	15.8	1.5	81.8	1.0
	無職	176	10.2	2.3	85.8	1.7
	無回答	16	25.0	6.3	62.5	12.5
居住年数別	1年未満	35	8.6	0.0	91.4	0.0
	1～5年未満	147	10.2	0.0	89.1	0.7
	5～10年未満	141	22.0	4.3	75.2	0.0
	10～20年未満	202	28.2	7.9	66.8	0.5
	20～30年未満	198	21.2	4.5	72.2	2.0
	30～40年未満	127	19.7	0.8	77.2	2.4
	40～50年未満	168	17.3	1.2	81.0	0.6
	50年以上	146	14.4	2.7	80.8	2.1
	無回答	12	8.3	0.0	75.0	16.7
定住意向別	住み続ける	722	19.7	3.7	76.2	1.1
	たぶん住み続ける	131	18.3	0.8	80.2	0.8
	たぶん引っ越す	136	17.6	1.5	80.1	1.5
	引っ越す	42	21.4	9.5	73.8	0.0
	わからない	136	17.6	2.9	78.7	1.5
	無回答	9	11.1	0.0	66.7	22.2

(8) ガンバ大阪について

(8)-1 ガンバ大阪を身近に感じるか

問 68. 本市はガンバ大阪のホームタウンですが、あなたは、ガンバ大阪を身近に感じますか。(1つだけ○印)

ガンバ大阪を身近に感じるか(図 3.9.26)は「感じる」と「時々感じる」を合わせた『感じる』の割合が54.8%、「感じない」の割合が42.8%となっています。

平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

性別(図 3.9.27)にみると、『感じる』では、男性(55.2%)、女性(54.5%)ともに5割台半ばとなっています。

年齢別にみると、『感じる』では、40歳代(62.3%)が最も高く、次いで、50歳代(58.9%)となっています。

居住地域別にみると、『感じる』では、山田・千里丘地域(67.7%)が最も高く、次いで、千里ニュータウン・万博・阪大地域(59.6%)となっています。

職業別にみると、『感じる』では、学生(69.8%)が最も高く、次いで、経営者、重役、役員(60.0%)となっています。

定住意向別にみると、『感じる』では、住み続ける(60.7%)が最も高く、次いで、引っ越す、わからない(いずれも50.0%)となっています。

図 3.9.26 ガンバ大阪を身近に感じるか(経年比較)

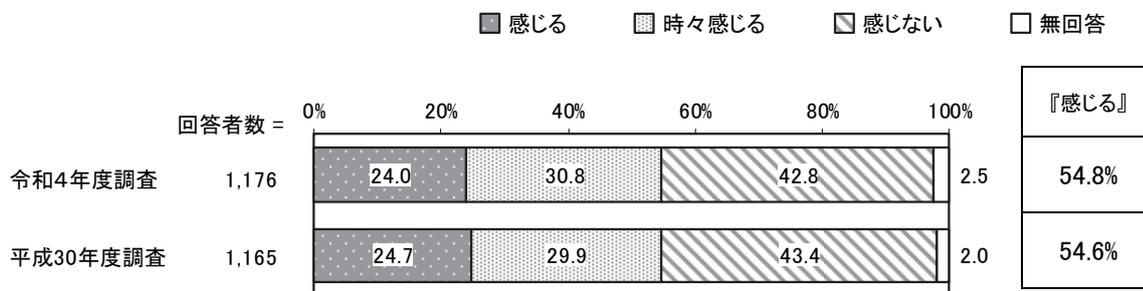
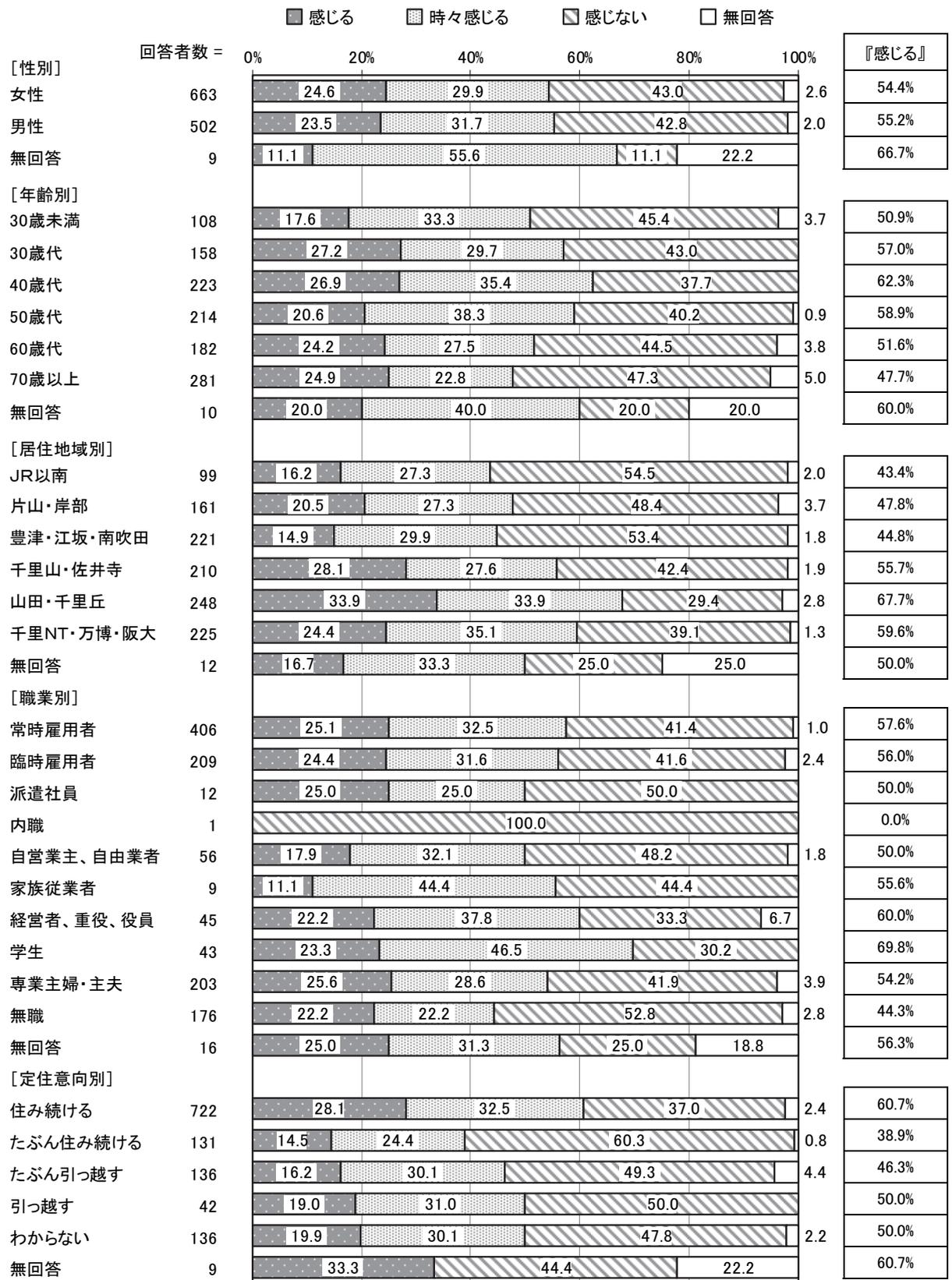


図 3.9.27 ガンバ大阪を身近に感じるか(性別・年齢別・居住地域別・職業別・定住意向別)



(8)-2 ガンバ大阪の印象

問 69. あなたは、ガンバ大阪が好きですか。(1つだけ○印)

ガンバ大阪の印象(図 3.9.28)は、「興味がない」の割合が 37.3%と最も高く、次いで「好き」の割合が 30.8%、「どちらでもない」の割合が 30.5%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「好き」は平成 30 年度調査(36.1%)よりも、令和 4 年度調査(30.8%)が 5.3 ポイント低くなっています。

性別(図 3.9.29)にみると、女性・男性ともに「興味がない」が最も高くなっています。

年齢別にみると、「好き」では、60 歳代(33.0%)で最も高く、30 歳未満(25.0%)が最も低くなっています。

居住地域別にみると、「好き」では、山田・千里丘地域(40.3%)が最も高く、JR以南地域(24.2%)が最も低くなっています。

職業別にみると、「好き」では、専業主婦・主夫(36.0%)が最も高く、経営者、重役、役員(24.4%)が最も低くなっています。

定住意向別にみると、「好き」では、住み続ける(35.9%)が最も高くなっています。

図 3.9.28 ガンバ大阪の印象(経年比較)

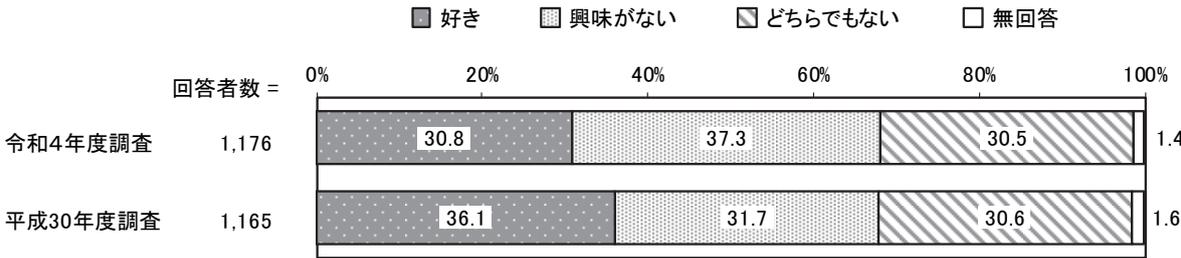
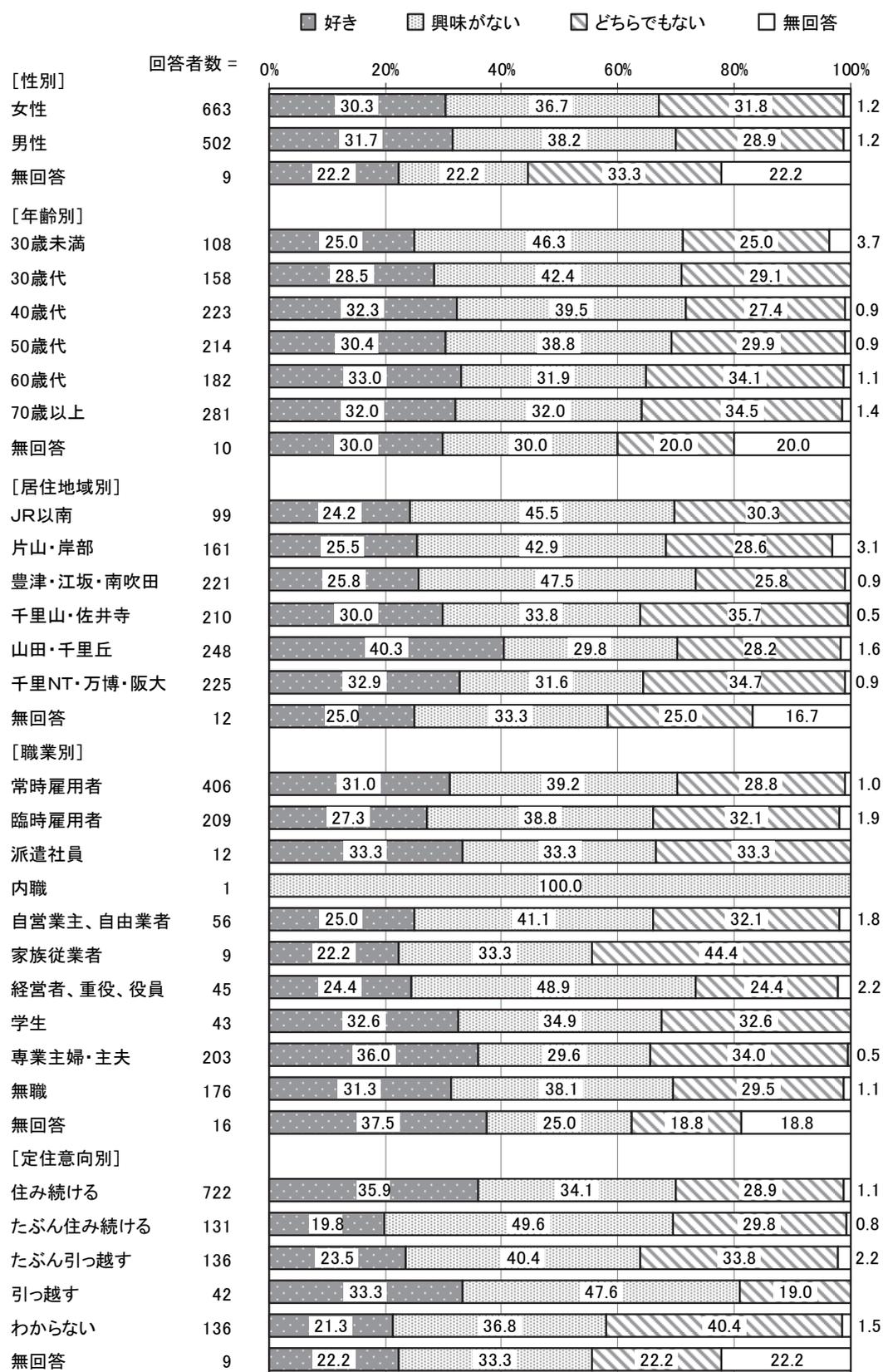


図 3.9.29 ガンバ大阪の印象(性別・年齢別・居住地域別・職業別・定住意向別)



(9) ヤングケアラーについて

(9)-1 「ヤングケアラー」の認知度

問 70. あなたは「ヤングケアラー」という言葉を聞いたことがありますか。
(1つだけ○印)

「ヤングケアラー」の認知度(図 3.9.30)は、「聞いたことがあります、内容も知っている」の割合が62.1%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、よく知らない」の割合が18.8%、「聞いたことはない」の割合が12.2%となっています。

性別(図 3.9.31)にみると、「聞いたことがあります、内容も知っている」では、男性(54.0%)よりも、女性(68.5%)が14.5ポイント高くなっています。

年齢別にみると、「聞いたことがあります、内容も知っている」では、40歳代から60歳代が高く、6割台となっています。一方、「聞いたことはない」では、30歳未満(16.7%)が最も高くなっています。

図 3.9.30 「ヤングケアラー」の認知度

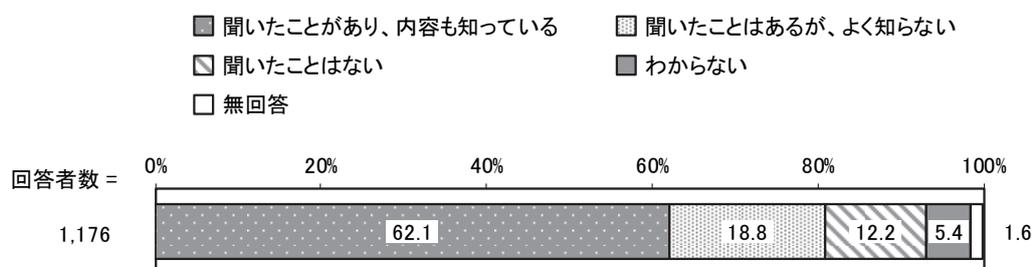
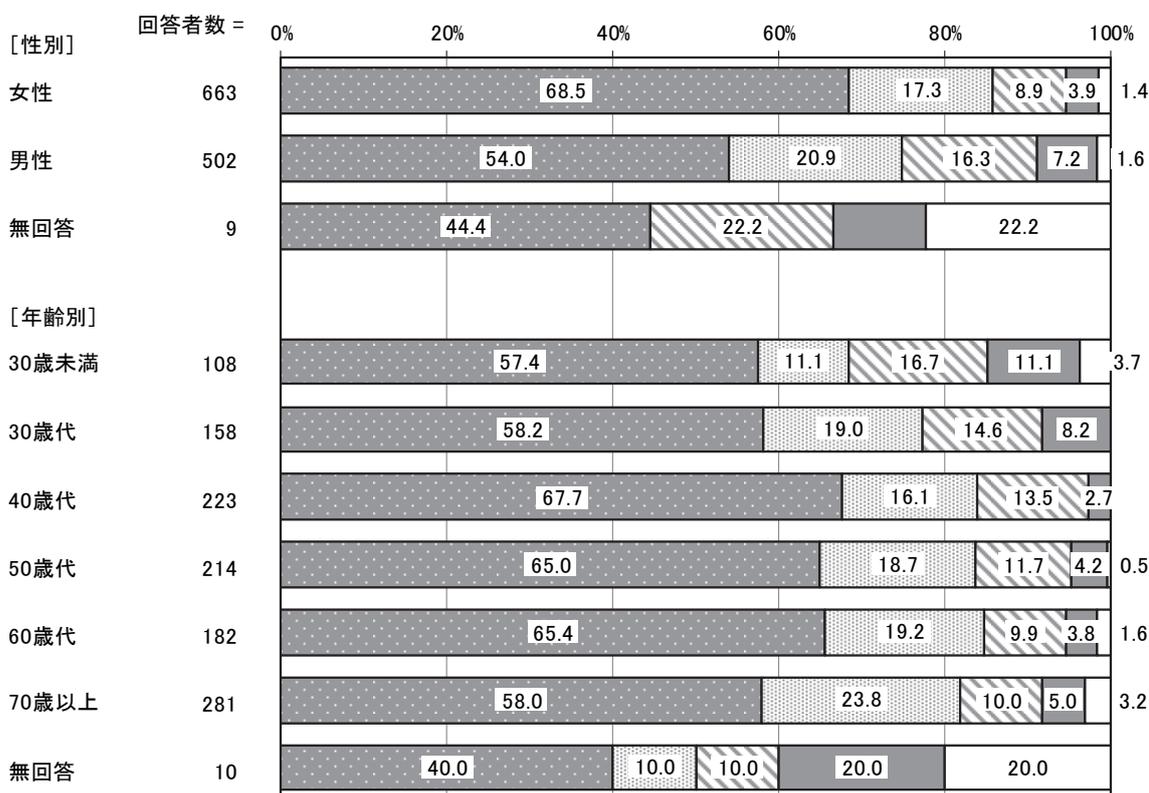


図 3.9.31 「ヤングケアラー」の認知度(性別・年齢別)



(9)-2 「ヤングケアラー」を認知したきっかけ

※副問は、問70で「聞いたことがあり、内容も知っている」「聞いたことはあるが、よく知らない」に○をした人のみお答えください。

副問 どこで「ヤングケアラー」という言葉を聞きましたか。(いくつでも○印)

「ヤングケアラー」を認知したきっかけ(図3.9.32)は、「テレビ・新聞・雑誌」の割合が88.6%と最も高く、次いで「WebサイトやSNS」の割合が14.3%となっています。

性別(表3.9.6)にみると、女性・男性ともに「テレビ・新聞・雑誌」が最も高くなっています。

年齢別にみると、いずれも「テレビ・新聞・雑誌」が最も高く、年齢層が上がるにつれ割合が概ね高くなっています。

居住地域別にみると、全地域で「テレビ・新聞・雑誌」が最も高く、なかでもJR以南地域(90.0%)、片山・岸部地域(92.2%)が9割台となっています。

図 3.9.32 「ヤングケアラー」を認知したきっかけ

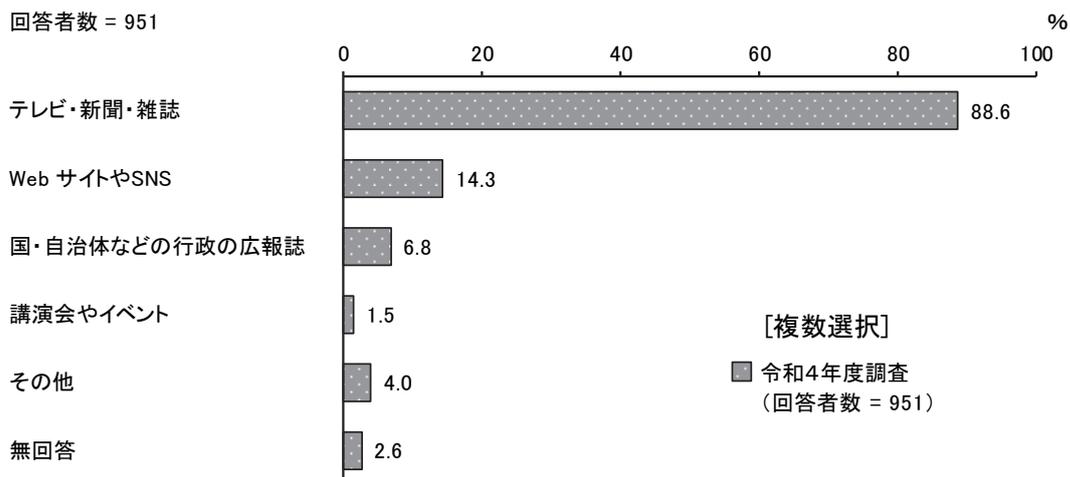


表 3.9.6 「ヤングケアラー」を認知したきっかけ(性別・年齢別・居住地域別)

単位：%

区分		回答者数 (人)	雑誌 テレビ・新聞・	国・自治体などの 行政の広報誌	Web サイトやSNS	講演会やイベント	その他	無回答
全 体		951	88.6	6.8	14.3	1.5	4.0	2.6
性別	女性	569	88.0	6.9	16.2	2.3	4.6	2.6
	男性	376	89.4	6.9	11.2	0.3	3.2	2.7
	その他	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	無回答	4	100.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
年齢別	30歳未満	74	68.9	4.1	18.9	1.4	17.6	5.4
	30歳代	122	86.9	3.3	27.0	0.8	4.1	0.8
	40歳代	187	85.6	4.8	23.0	3.2	3.7	2.1
	50歳代	179	89.9	4.5	16.2	2.2	2.8	3.7
	60歳代	154	93.5	7.1	5.8	1.3	1.9	1.3
	70歳以上	230	93.7	13.0	2.6	0.0	2.2	3.0
	無回答	5	100.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0
居住地域別	J R以南	80	90.0	5.0	8.8	1.3	3.8	5.0
	片山・岸部	128	92.2	4.7	14.1	2.3	3.1	3.1
	豊津・江坂・南吹田	170	88.2	7.6	11.8	1.8	5.9	2.9
	千里山・佐井寺	167	88.6	6.0	15.6	1.2	4.8	1.2
	山田・千里丘	197	86.3	6.6	16.2	1.0	3.6	2.5
	千里NT・万博・阪大	202	88.1	9.4	15.3	1.5	3.0	2.5
	無回答	7	100.0	0.0	28.6	0.0	0.0	0.0

(9)-3 身内でのヤングケアラーの有無

問 71. 家族・親族にヤングケアラーと思われる子供がいますか。(1つだけ○印)

身内でのヤングケアラーの有無(図 3.9.33)は、「いない」の割合が 87.1%と最も高くなっています。

性別(図 3.9.34)にみると、「いない」が女性・男性ともに最も高くなっています。

年齢別にみると、全ての年齢層で「いない」が最も高くなっていますが、40 歳代では「いる」が 3.1%となっています。

居住地域別にみると、全地域で「いない」が最も高くなっています。

世帯年収別にみると、いずれも「いない」が最も高くなっていますが、750 万円未満より、750 万円以上の方が高くなっています。

配偶者の有無別にみると、「いない」の割合は、配偶者がいない人(83.3%)より、いる人(89.8%)の方が高くなっています。

世帯人員別にみると、「いない」の割合は、3 人以下より、4 人以上で高くなっています。

図 3.9.33 身内でのヤングケアラーの有無

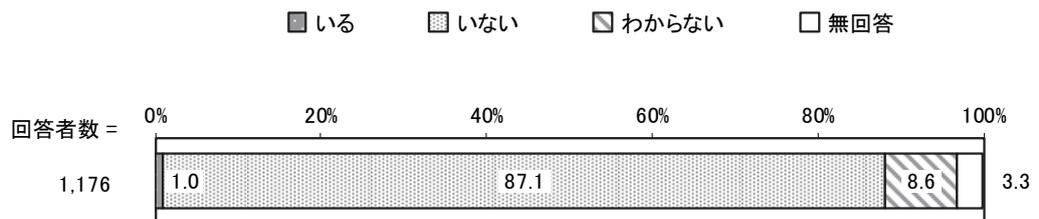
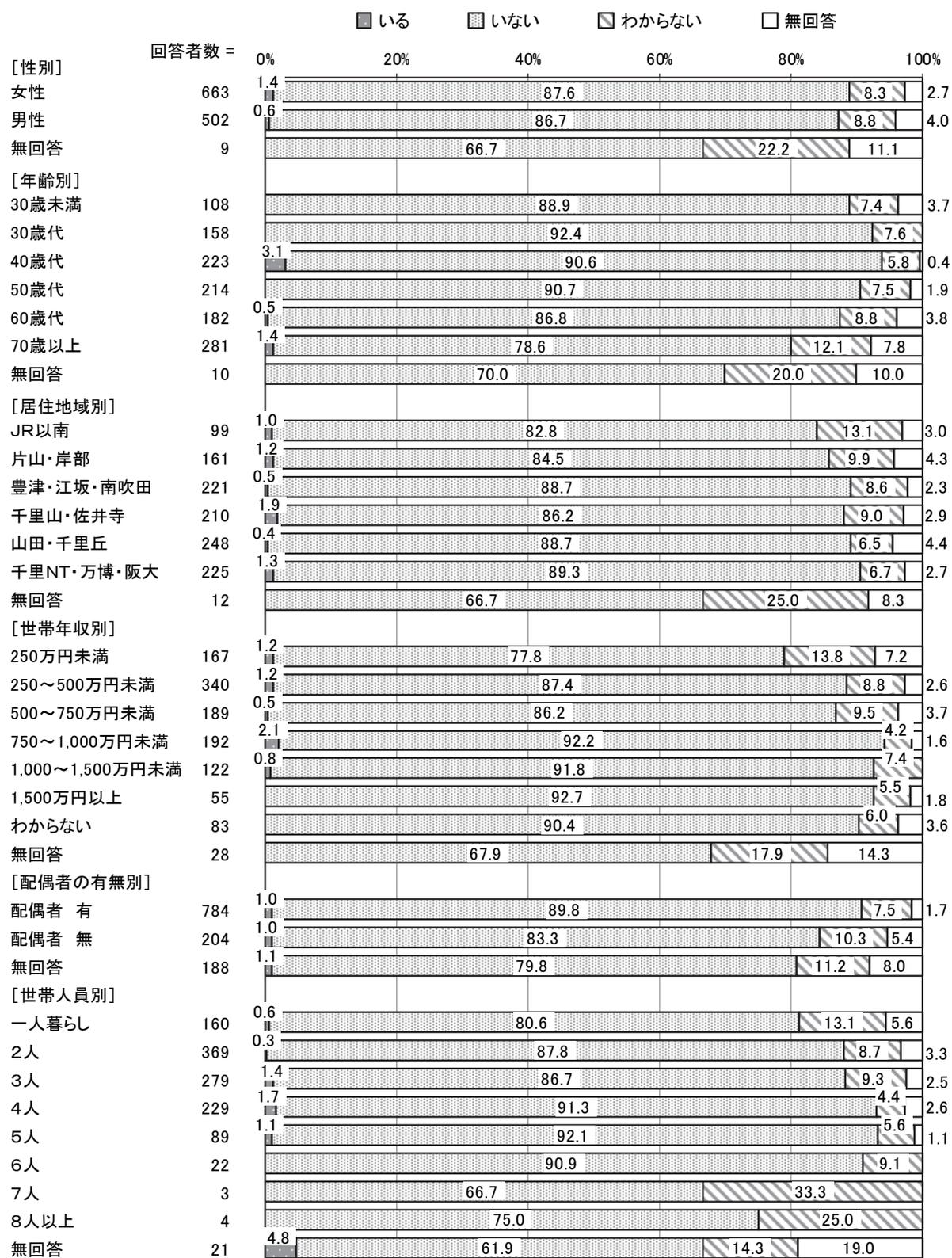


図 3.9.34 身内でのヤングケアラーの有無(性別・年齢別・居住地域別・世帯年収別・配偶者の有無別・世帯人員別)



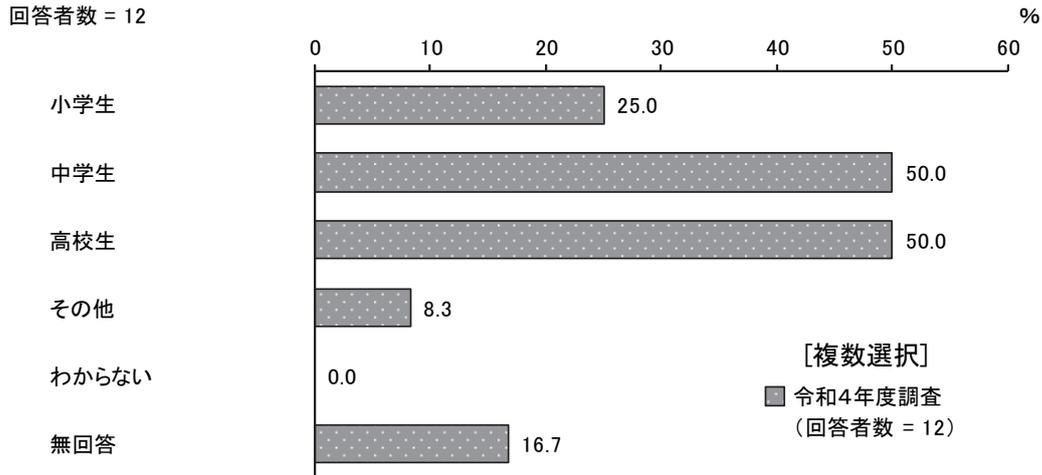
(9)-4 身内でのヤングケアラーの年代

※副問 1、2 は、問 71 で「いる」に○をした人のみお答えください。

副問 1 ヤングケアラーと思われる子供の年代はどれくらいですか。(いくつでも○印)

身内でのヤングケアラーの年代(図 3.9.35)は、「中学生」、「高校生」の割合が 50.0%と最も高く、次いで「小学生」の割合が 25.0%となっています。

図 3.9.35 身内でのヤングケアラーの年代

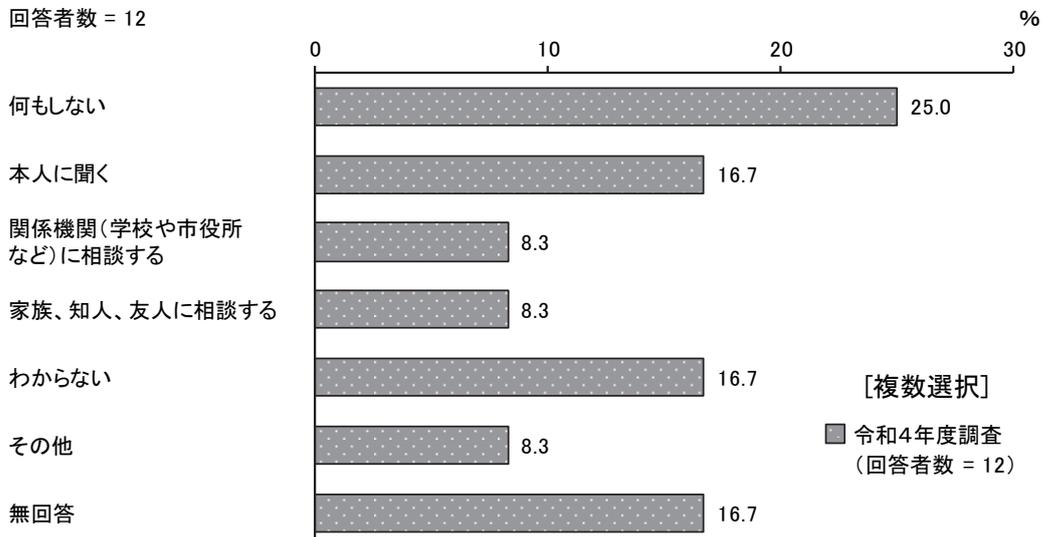


(9)-5 身内でのヤングケアラーへの対応

副問 2 ヤングケアラーと思われる子供がいた場合、どのように対応しますか。(いくつでも○印)

身内でのヤングケアラーへの対応(図 3.9.36)は、「何もしない」の割合が 25.0%と最も高く、次いで「本人に聞く」、「わからない」の割合が 16.7%となっています。

図 3.9.36 身内でのヤングケアラーへの対応



(9)-6 身近でのヤングケアラーの有無

※副問3は、問71で「いない」「わからない」に○をした人のみお答えください。

副問3 友人、知人やその子供、子供のクラスメイト、近隣などにヤングケアラーと思われる子供がいますか。(1つだけ○印)

身近でのヤングケアラーの有無(図3.9.37)は、「いない」の割合が58.8%と最も高く、次いで「わからない」の割合が36.3%となっています。

性別(図3.9.38)にみると、女性・男性ともに「いない」が最も高くなっていますが、男性(56.2%)よりも、女性(61.0%)の方が4.8ポイント高くなっています。

年齢別にみると、いずれも「いない」が最も高くなっていますが、「いる」では30歳未満(6.7%)が若干高くなっています。

居住地域別にみると、全地域で「いない」が最も高く、なかでも千里ニュータウン・万博・阪大地域(63.4%)が最も高くなっています。

職業別にみると、「いる」では、学生(9.3%)が最も高く、次いで派遣社員(9.1%)が高くなっています。

居住年数別にみると、いずれも「いない」が最も高くなっています。

図3.9.37 身近でのヤングケアラーの有無

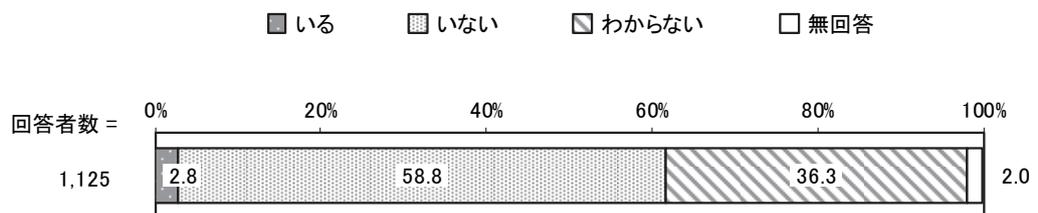
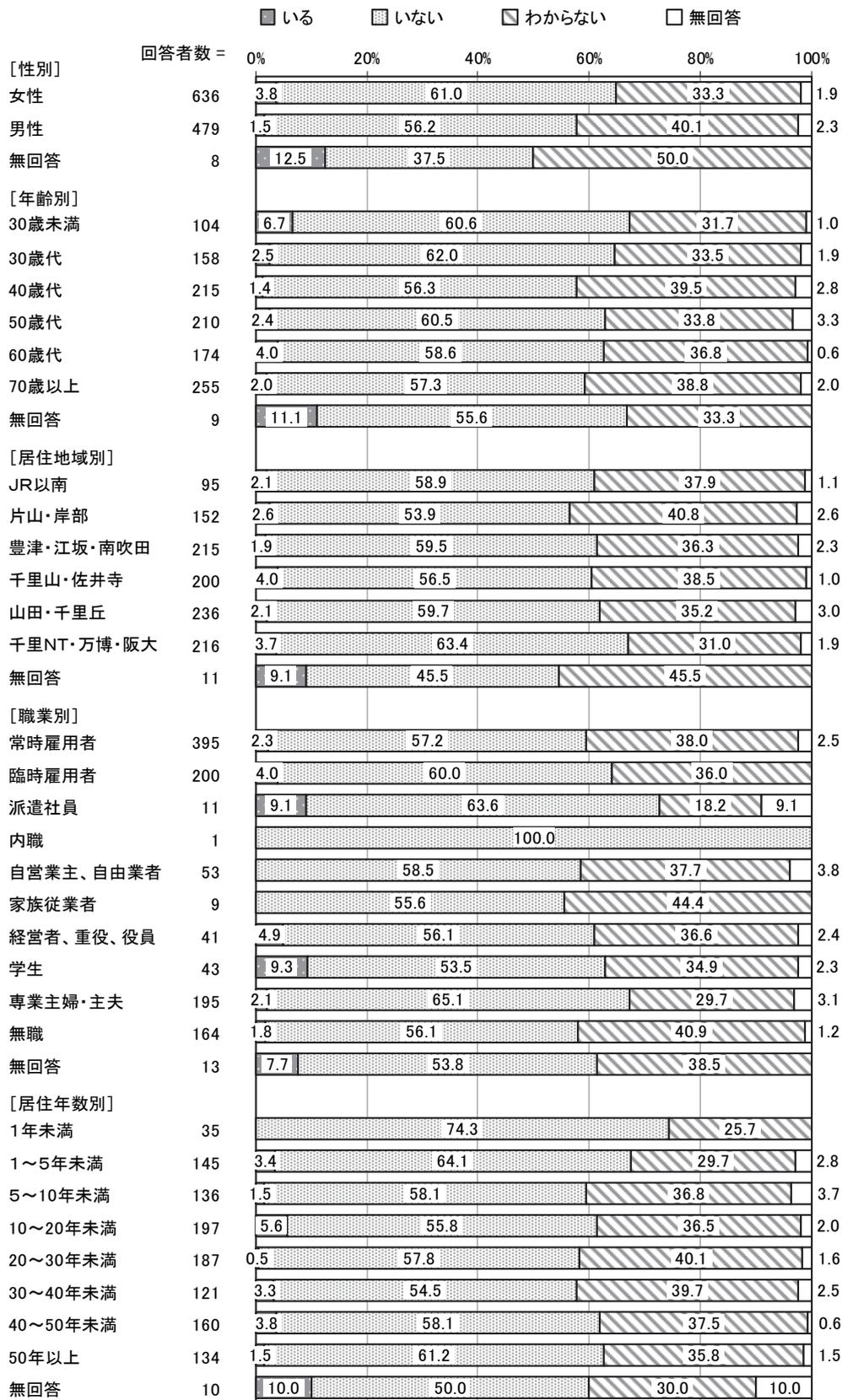


図 3.9.38 身近でのヤングケアラーの有無(性別・年齢別・居住地域別・職業別・居住年数別)

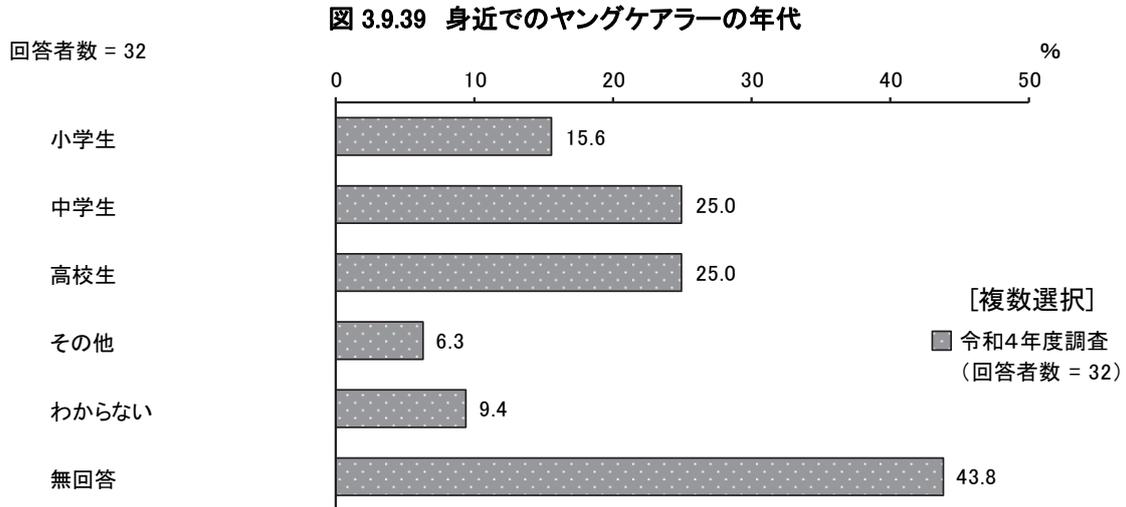


(9)-7 身近でのヤングケアラーの年代

※副問4、5は、副問3で「いる」に○をした人のみお答えください。

副問4 ヤングケアラーと思われる子供の年代はどれくらいですか。(いくつでも○印)

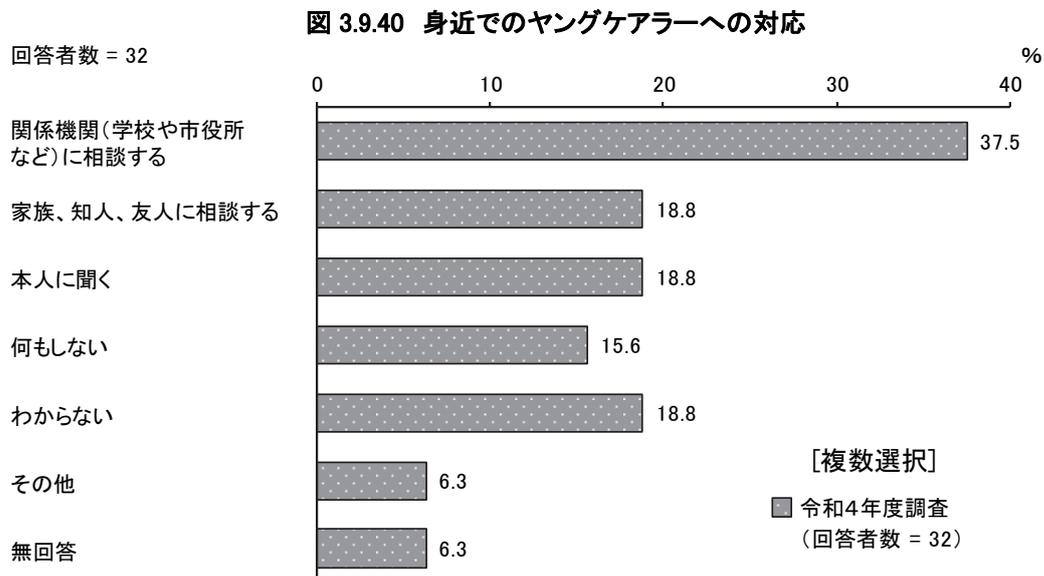
身近でのヤングケアラーの年代(図3.9.39)は、「中学生」、「高校生」の割合が25.0%と最も高く、次いで「小学生」の割合が15.6%となっています。



(9)-8 身近でのヤングケアラーへの対応

副問5 ヤングケアラーと思われる子供がいた場合、どのように対応しますか。(いくつでも○印)

身近でのヤングケアラーへの対応(図3.9.40)は、「関係機関(学校や市役所など)に相談する」の割合が37.5%と最も高く、次いで「家族、知人、友人に相談する」、「本人に聞く」、「わからない」の割合が18.8%となっています。



(10) ひきこもりについて

(10)-1 ひきこもり状態となる時期

問 72. ひきこもりについてお伺いします。ひきこもり状態となる時期はいつ頃からが多いと思いますか。(1つだけ○印)

ひきこもり状態となる時期（図 3.9.41）は、「学齢期（小中学時）」の割合が 56.0%と最も高く、次いで「高校時」の割合が 24.6%となっています。

性別（表 3.9.7）にみると、女性・男性ともに「学齢期（小中学時）」が最も高くなっています。

年齢別にみると、「学齢期（小中学時）」では、40 歳代（64.1%）が最も高く、次いで 30 歳代（62.7%）が高く、6 割台となっています。

図 3.9.41 ひきこもり状態となる時期

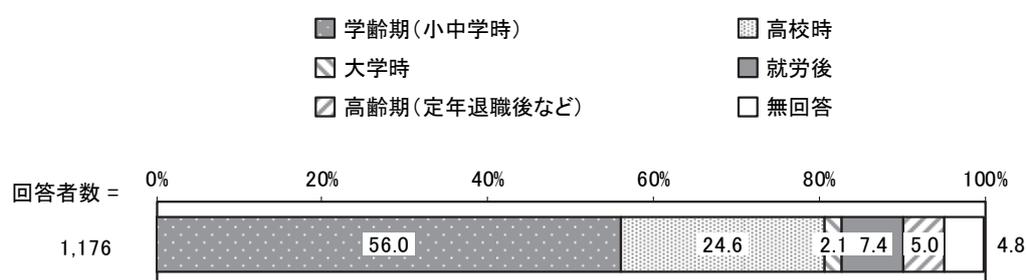


表 3.9.7 ひきこもり状態となる時期(性別・年齢別)

単位：%

区分		回答者数 (人)	学齢期 (小中学時)	高校時	大学時	就労後	退職後など (定年)	無回答
全体		1,176	56.0	24.6	2.1	7.4	5.0	4.8
性別	女性	663	55.8	24.4	2.4	7.5	5.1	4.7
	男性	502	56.2	25.3	1.8	7.0	4.8	5.0
	その他	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	無回答	9	55.6	0.0	0.0	22.2	11.1	11.1
年齢別	30歳未満	108	53.7	30.6	2.8	3.7	2.8	6.5
	30歳代	158	62.7	22.2	3.2	8.9	2.5	0.6
	40歳代	223	64.1	20.6	1.8	8.5	3.1	1.8
	50歳代	214	59.3	24.8	2.3	8.4	2.3	2.8
	60歳代	182	49.5	33.0	1.1	6.0	6.6	3.8
	70歳以上	281	49.1	21.7	2.1	6.8	9.6	10.7
	無回答	10	40.0	10.0	0.0	20.0	10.0	20.0

(10)-2 ひきこもり状態となるきっかけ

問 73. ひきこもり状態となる主なきっかけは何だと思えますか。(1つだけ○印)

ひきこもり状態となるきっかけ(図 3.9.42)は、「いじめ・不登校」の割合が64.3%と最も高くなっています。

性別(表 3.9.8)にみると、女性・男性ともに「いじめ・不登校」が最も高く、6割台となっています。「家庭環境(親の養育等の問題)」では、女性(5.4%)より、男性(10.4%)が5.0ポイント高くなっています。

年齢別にみると、「いじめ・不登校」では30歳代(71.5%)が最も高く、70歳以上(56.6%)で最も低くなっています。

図 3.9.42 ひきこもり状態となるきっかけ

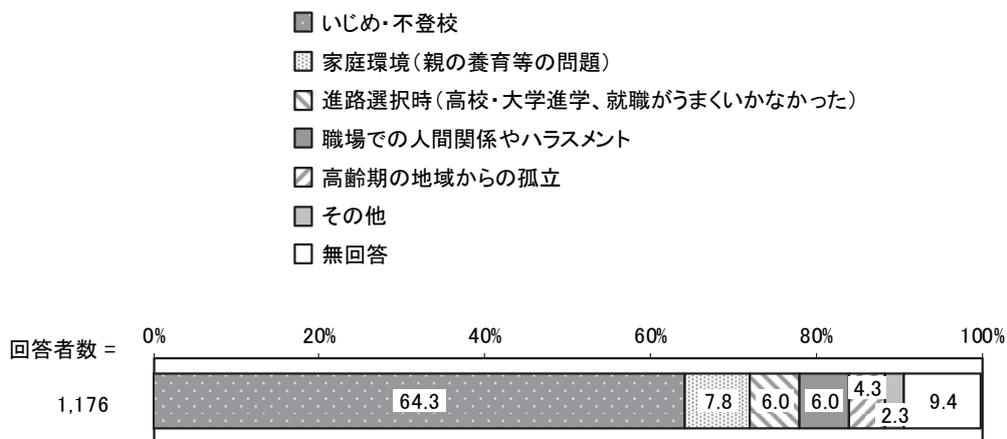


表 3.9.8 ひきこもり状態となるきっかけ(性別・年齢別)

単位：%

区分	回答者数(人)	いじめ・不登校	家庭環境(親の養育等の問題)	進路選択時(高校・大学進学、就職がうまくいかなかった)	職場での人間関係やハラスメント	立 高齢期の地域からの孤立	その他	無回答	
全 体	1,176	64.3	7.8	6.0	6.0	4.3	2.3	9.4	
性別	女性	663	64.1	5.4	7.4	5.9	4.7	2.7	9.8
	男性	502	65.1	10.4	4.2	6.0	3.6	1.8	9.0
	その他	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	無回答	9	33.3	33.3	0.0	11.1	11.1	0.0	11.1
年齢別	30歳未満	108	65.7	9.3	7.4	3.7	1.9	3.7	8.3
	30歳代	158	71.5	7.0	2.5	7.0	2.5	3.2	6.3
	40歳代	223	69.5	4.9	6.7	7.2	2.7	3.6	5.4
	50歳代	214	68.7	9.3	5.6	5.6	2.3	1.4	7.0
	60歳代	182	59.3	10.4	6.6	6.0	5.5	1.6	10.4
	70歳以上	281	56.6	6.8	6.4	5.3	7.8	1.4	15.7
	無回答	10	30.0	20.0	10.0	10.0	10.0	0.0	20.0

(10)-3 ひきこもりに必要な支援

問 74. ひきこもりが長期化すると当事者や家族の将来への不安は大きくなりますが、どのような支援が必要と思われますか。(いくつでも○印)

ひきこもりに必要な支援(図 3.9.43)は、「誰もが気軽に立ち寄れる地域の居場所をつくる」の割合が48.5%と最も高く、次いで「地域でボランティア等、ひきこもりの理解者(支援者)を育成し支援する」の割合が42.4%、「友人、知人が声掛けし窓口への相談を勧める」の割合が28.5%となっています。

性別(表 3.9.9)にみると、女性・男性ともに「誰もが気軽に立ち寄れる地域の居場所をつくる」が最も高くなっていますが、男性(44.2%)よりも、女性(51.4%)の方が、7.2ポイント高くなっています。

年齢別にみると、30歳未満と50歳代以上で「誰もが気軽に立ち寄れる地域の居場所をつくる」が最も高くなっています。また、30歳代、40歳代では「地域でボランティア等、ひきこもりの理解者(支援者)を育成し支援する」が最も高くなっています。

居住地域別にみると、「地域でボランティア等、ひきこもりの理解者(支援者)を育成し支援する」では、千里山・佐井寺地域(54.3%)が最も高くなっています。

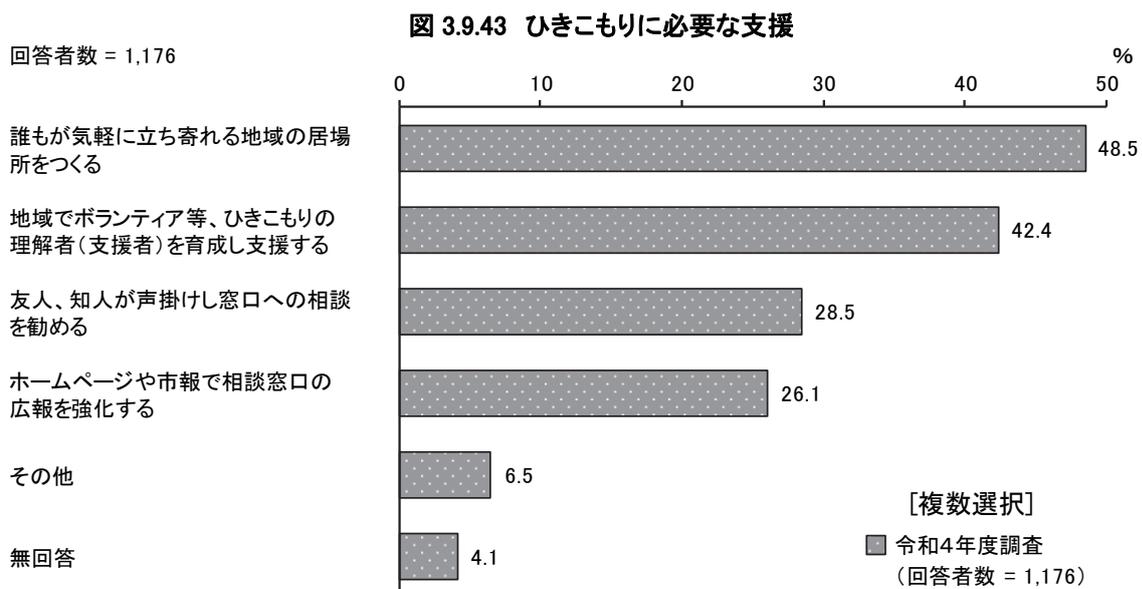


表 3.9.9 ひきこもりに必要な支援(性別・年齢別・居住地域別)

単位：%

区分		回答者数(人)	ホームページや市報で相談窓口の広報を強化する	友人、知人が声掛けし窓口への相談を勧める	地域でボランティア等、ひきこもりの理解者(支援者)を育成し支援する	誰もが気軽に立ち寄れる地域の居場所をつくる	その他	無回答
全 体		1,176	26.1	28.5	42.4	48.5	6.5	4.1
性別	女性	663	28.5	27.3	42.2	51.4	6.8	3.8
	男性	502	22.9	30.1	42.6	44.2	6.2	4.4
	その他	2	0.0	0.0	100.0	50.0	0.0	0.0
	無回答	9	33.3	33.3	33.3	66.7	0.0	11.1
年齢別	30歳未満	108	16.7	25.9	31.5	44.4	13.0	3.7
	30歳代	158	26.6	21.5	46.2	40.5	9.5	0.0
	40歳代	223	30.0	27.4	51.6	47.5	7.2	0.9
	50歳代	214	23.4	35.0	44.4	47.7	4.2	1.9
	60歳代	182	28.6	28.6	45.1	53.3	5.5	2.7
	70歳以上	281	27.0	29.2	34.5	53.0	3.7	11.0
	無回答	10	20.0	30.0	30.0	40.0	10.0	20.0
居住地域別	JR以南	99	28.3	28.3	32.3	53.5	13.1	1.0
	片山・岸部	161	26.1	25.5	40.4	46.6	6.8	6.2
	豊津・江坂・南吹田	221	22.2	29.0	40.3	48.0	5.9	3.2
	千里山・佐井寺	210	29.0	27.6	54.3	46.7	5.2	4.3
	山田・千里丘	248	24.2	27.0	43.1	48.4	5.6	5.2
	千里NT・万博・阪大	225	28.9	32.9	39.6	49.8	5.3	3.1
	無回答	12	16.7	25.0	25.0	50.0	16.7	8.3

(11) のら猫について

(11)-1 近所ののら猫の数

問 75. のら猫についてお伺いします。ここ2～3年で、近所ののら猫が増えたと思いますか。(1つだけ○印)

近所ののら猫の数(図3.9.44)は、「変わらない」の割合が34.7%と最も高く、次いで「以前から見かけない(わからない)」の割合が34.2%、
「減った」の割合が18.0%となっています。

年齢別(図3.9.45)にみると、「変わらない」では、40歳代(39.9%)が最も高く、次いで30歳未満(38.9%)が高くなっています。

居住地域別にみると、「増えた」では、JR以南地域(23.2%)が最も高く、山田・千里丘地域(4.4%)が最も低くなっています。

住宅形態別にみると、「増えた」では、その他の住所形態を除くと、持ち家(一戸建て等)(20.4%)が最も高くなっています。一方、「減った」では、府営・市営(賃貸)(25.7%)が最も高く、次いで公団・公社(賃貸)(23.1%)が高くなっています。

図 3.9.44 近所ののら猫の数

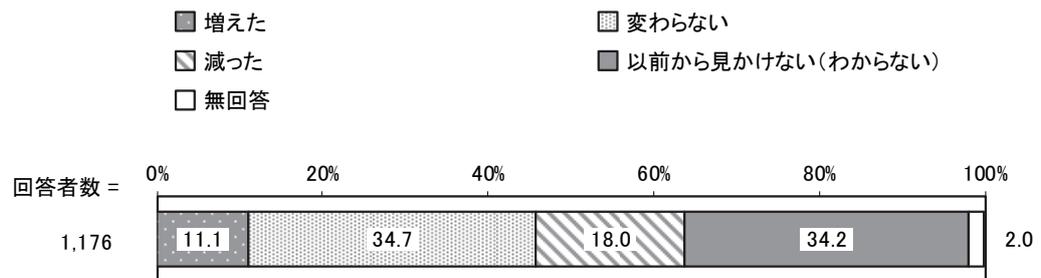
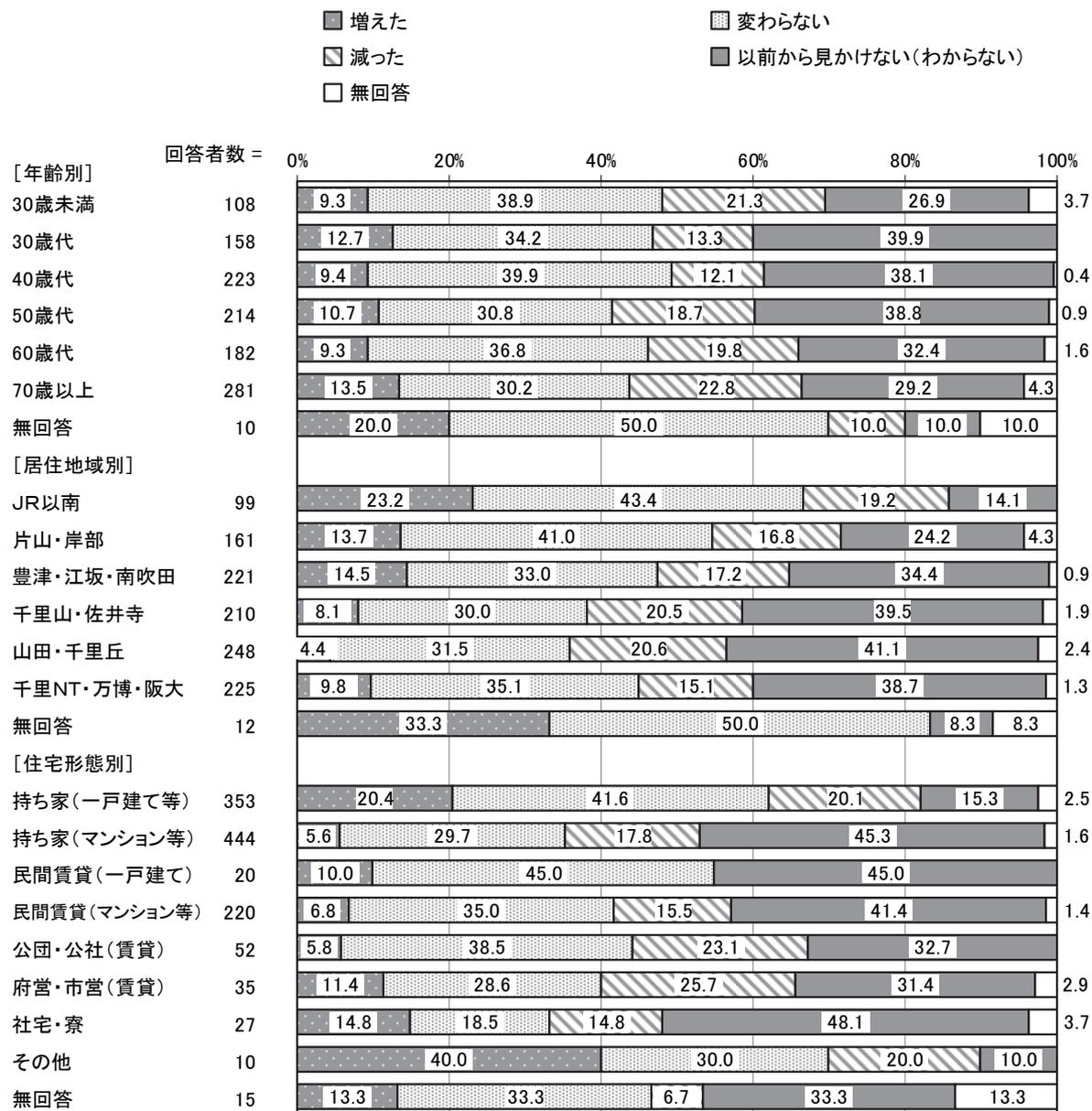


図 3.9.45 近所ののら猫の数(年齢別・居住地域別・住宅形態別)



(11)-2 のら猫のふん尿被害の有無

問 76. 現在、のら猫のふん尿などで困っていますか。(1つだけ○印)

のら猫のふん尿被害の有無(図 3.9.46)は、「困っている」の割合が12.7%、「特に困っていない」の割合が85.1%となっています。

年齢別(図 3.9.47)にみると、「困っている」では、30歳代(19.6%)が最も高くなっています。

居住地域別にみると、「困っている」では、JR以南地域(26.3%)が最も高くなっている一方、山田・千里丘地域(5.6%)で最も低くなっています。

住宅形態別でみると、「困っている」では、その他の住居形態を除くと、持ち家(一戸建て等)(28.3%)が最も高くなっています。

図 3.9.46 のら猫のふん尿被害の有無

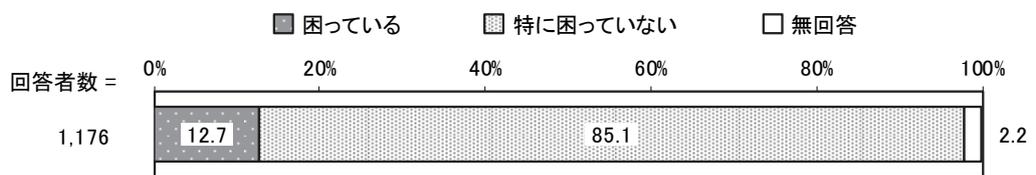
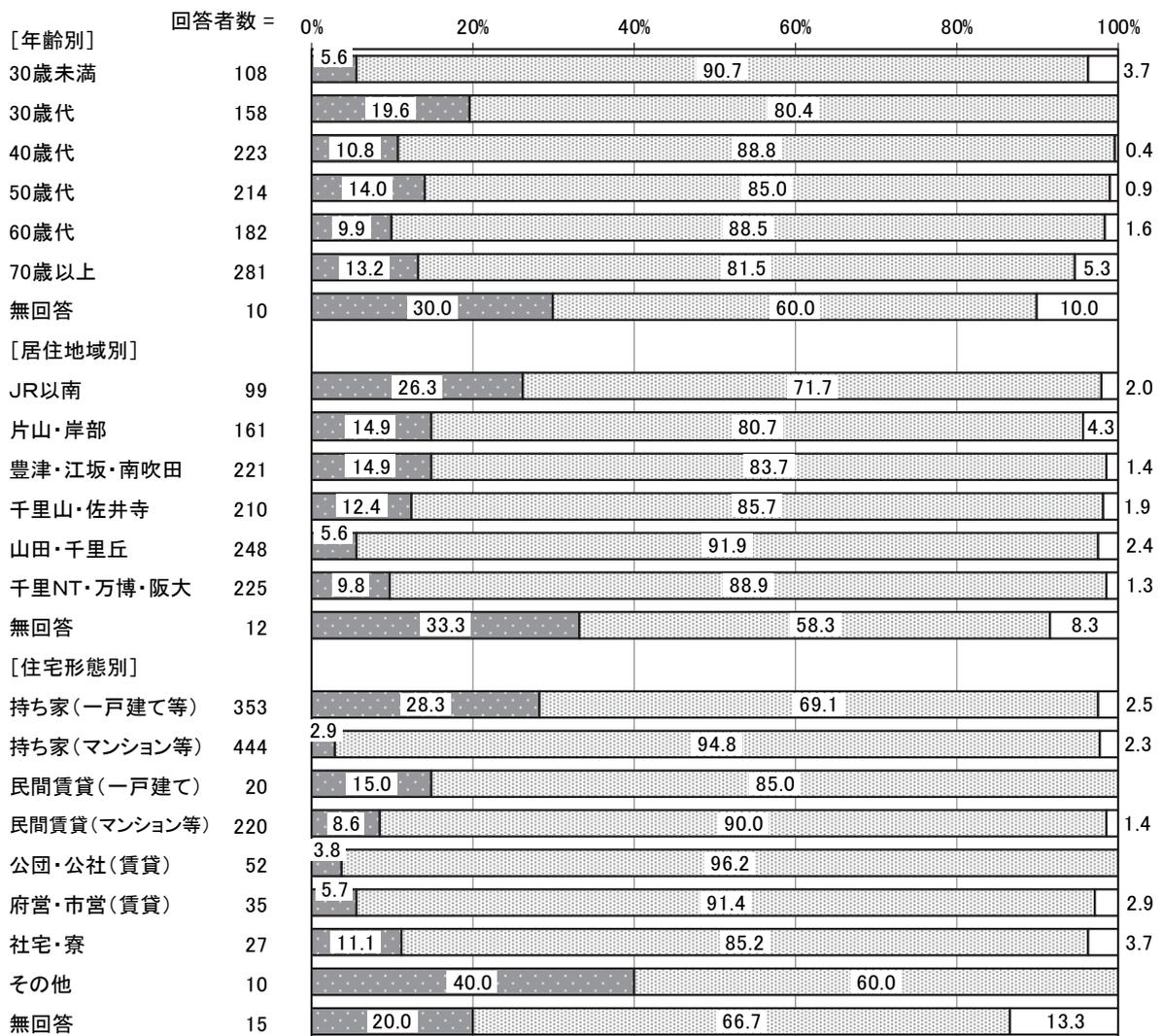


図 3.9.47 のら猫のふん尿被害の有無(性別・年齢別・居住地域別)



(11)-3 のら猫への餌付け経験

問 77. 現在、のら猫にエサを与えていますか。(1つだけ○印)

のら猫への餌付け経験(図 3.9.48)は、「与えたことがない」の割合が95.2%と最も高くなっています。

年齢別(図 3.9.49)にみると、「与えたことがある」では、70歳以上(2.8%)が最も高くなっています。

居住地域別にみると、全地域で「与えたことがない」が最も高くなっています。

住宅形態別にみると、いずれも「与えたことがない」が最も高くなっています。

図 3.9.48 のら猫への餌付け経験

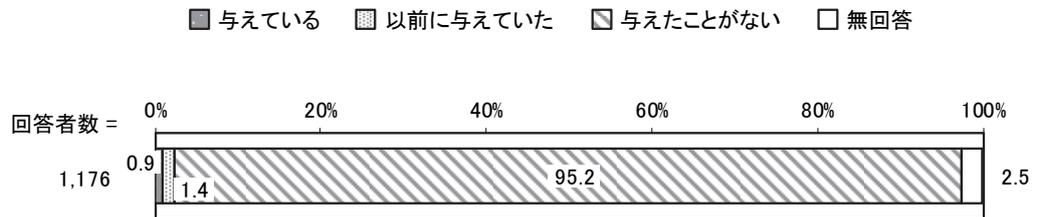
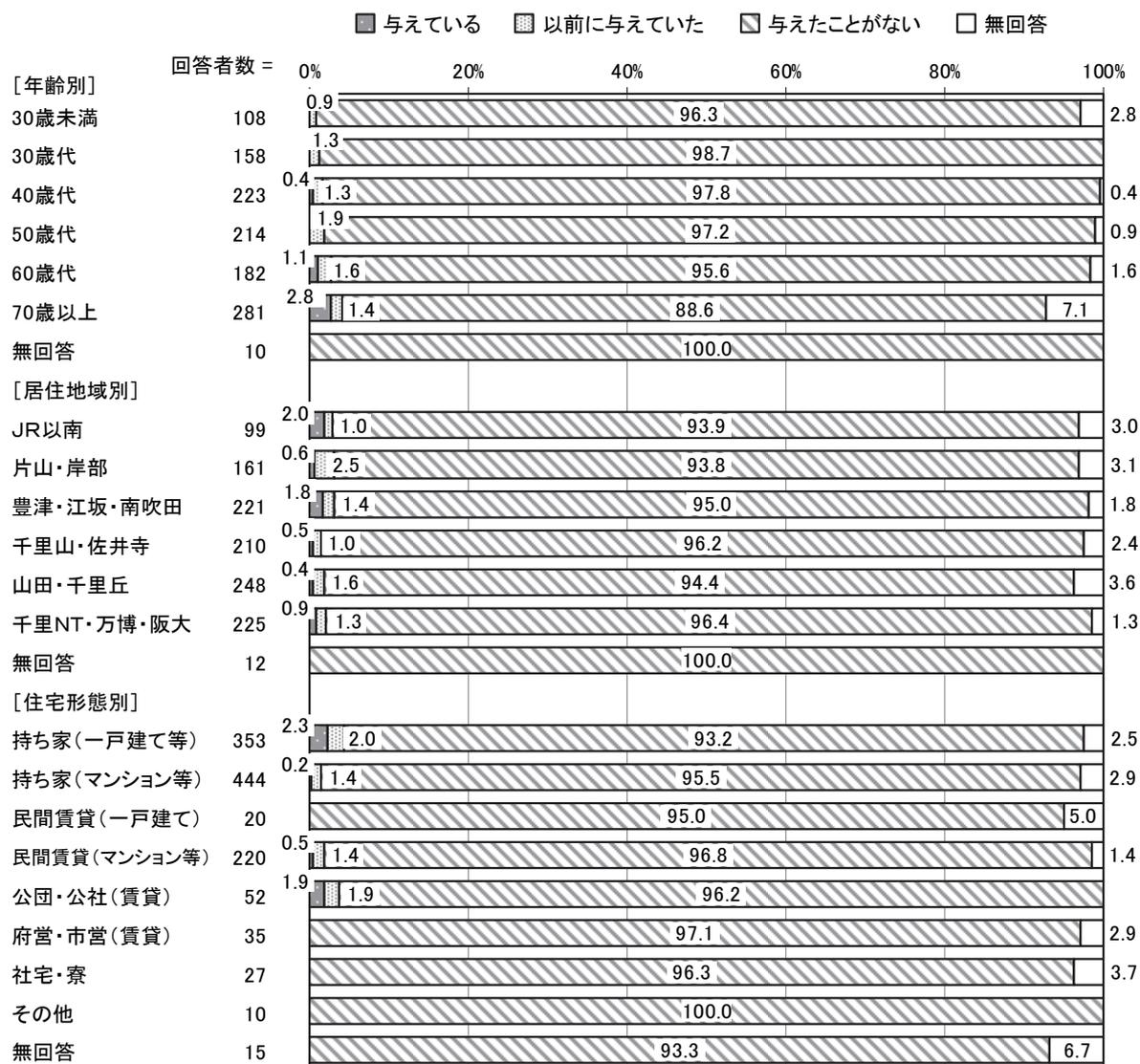


図 3.9.49 のら猫への餌付け経験(年齢別・居住地域別・住宅形態別)



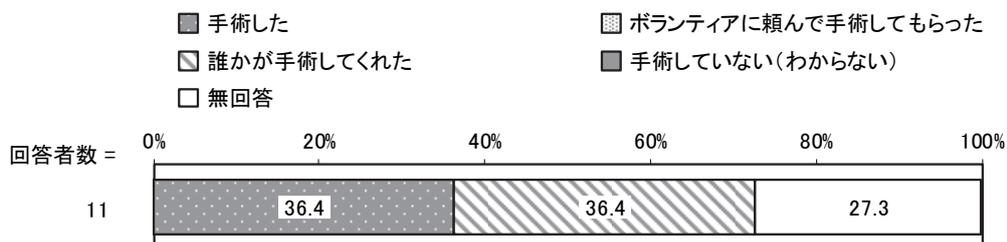
(11)-4 餌付けしている猫への避妊去勢手術の実施有無

※副問は、問 77 で「与えている」に○をした人のみお答えください。

副問 エサを与えている猫に避妊去勢手術をしていますか。(1つだけ○印)

餌付けしている猫への避妊去勢手術の実施有無(図 3.9.50)は、「手術した」、「誰かが手術してくれた」の割合が 36.4%と最も高くなっています。

図 3.9.50 餌付けしている猫への避妊去勢手術の実施有無



(11)-5 のら猫への餌付けに関する近所トラブルの有無

問 78. のら猫のエサやりに関するご近所トラブルがありますか。(1つだけ○印)

のら猫への餌付けに関する近所トラブルの有無 (図 3.9.51) は、「あまり聞かない」の割合が 85.0%と最も高くなっています。

年齢別 (図 3.9.52) にみると、「多い」と「時々ある」を合わせた『ある』は全ての年齢層で 1割台となっています。

居住地域別にみると、『ある』では、JR以南地域 (17.2%) が最も高く、次いで片山・岸部地域 (16.1%) が高くなっています。

住宅形態別にみると、『ある』では、その他の住宅形態を除くと、府営・市営 (賃貸) (22.9%) が最も高く、次いで持ち家 (一戸建て等) (18.1%) が高くなっています。

図 3.9.51 のら猫への餌付けに関する近所トラブルの有無

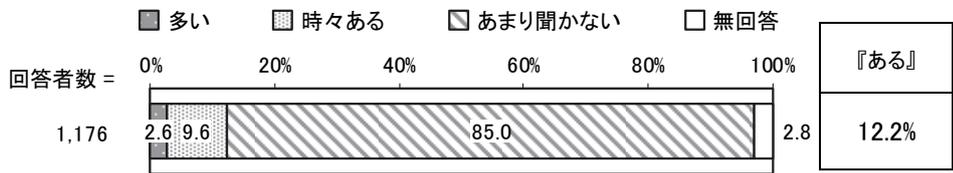
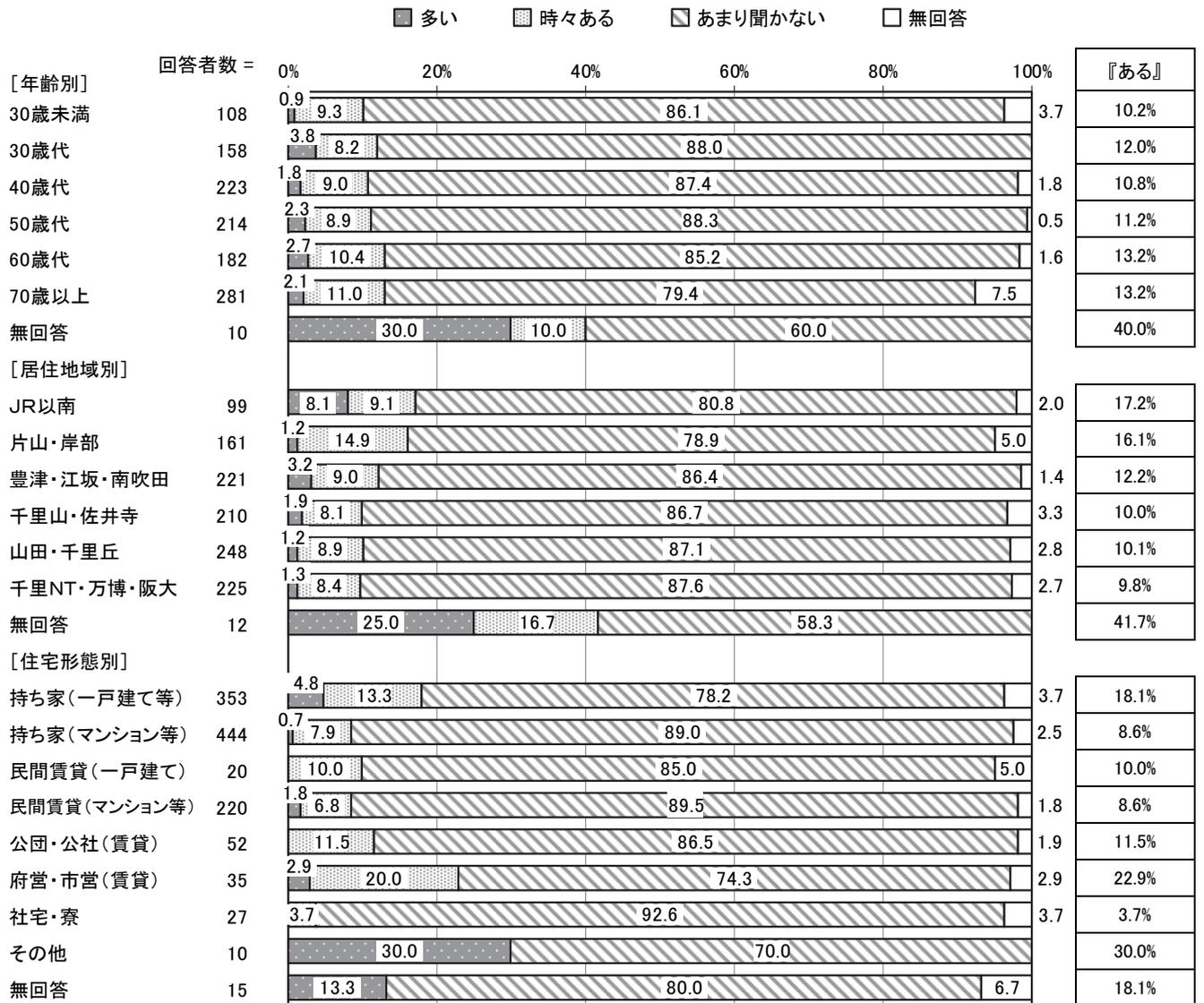


図 3.9.52 のら猫への餌付けに関する近所トラブルの有無(年齢別・居住地別・住宅形態別)



(11)－6 地域猫活動への印象

問 79. 住民が地域の理解のもと、のら猫に避妊去勢手術を行い、エサの管理や清掃のルールを決め、適切に管理しながらのら猫を減らすことを地域猫活動といたします。地域猫活動をどう思いますか。(1つだけ○印)

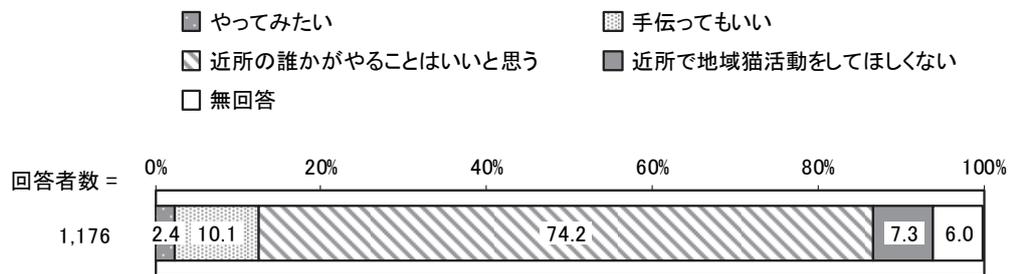
地域猫活動への印象(図 3.9.53)は、「近所の誰かがやることはいいと思う」の割合が74.2%と最も高く、次いで「手伝ってもいい」の割合が10.1%となっています。

年齢別(図 3.9.54)にみると、「手伝ってもいい」では、30歳未満(17.6%)が最も高くなっています。

居住地域別にみると、全地域で「近所の誰かがやることはいいと思う」が最も高くなっています。また、「手伝ってもいい」では、片山・岸部地域(14.3%)が最も高く、次いで豊津・江坂・南吹田地域(13.6%)が高くなっています。

住宅形態別にみると、いずれも「近所の誰かがやることはいいと思う」が最も高くなっています。また、「手伝ってもいい」では、その他の住宅形態を除くと、民間賃貸(マンション等)(14.1%)が最も高くなっています。

図 3.9.53 地域猫活動への印象



(12) 消防団について

(12)-1 消防団の入団意向

問 80. 消防団についてお伺いします。あなたは、地域の方々に結成している消防団に入団したいと思いますか。(1つだけ○印)

消防団の入団意向（図 3.9.55）は、「入団したい」と「条件が合えば入団したい」を合わせた『入団したい』の割合よりも、「入団したくない」の割合が46.3%と高くなっています。

性別（表 3.9.10）にみると、『入団したい』では、女性より男性の方が高くなっています。

年齢別にみると、「入団したくない」では、50歳代（50.0%）が最も高くなっています。また、「消防団を詳しく知らない」では、30歳代（32.9%）が最も高くなっています。

居住地域別にみると、全地域で『入団したい』は5%未満となっています。また、「入団したくない」では、山田・千里丘地域（49.6%）が最も高くなっています。また、「消防団を詳しく知らない」では、千里山・佐井寺地域（27.1%）が最も高くなっています。

職業別にみると、いずれも『入団したい』は、5%未満となっています。一方、「入団したくない」では、経営者、重役、役員（60.0%）が最も高くなっています。また、「消防団を詳しく知らない」では、派遣社員（41.7%）が最も高くなっています。

図 3.9.55 消防団の入団意向（経年比較）

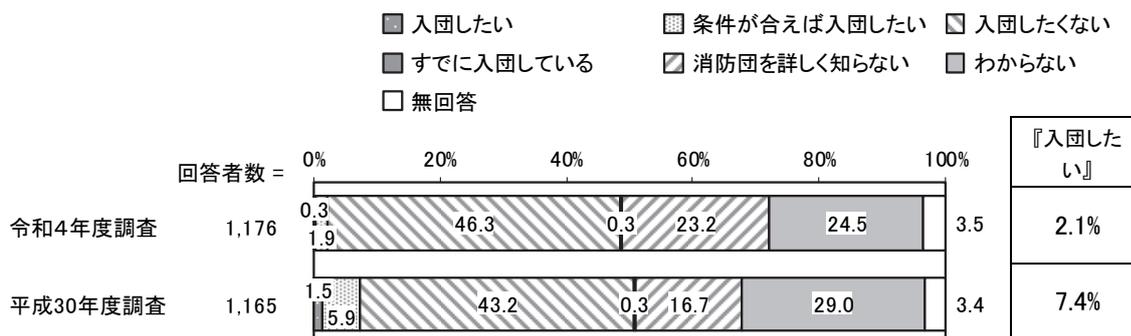


表 3.9.10 消防団の入団意向(性別・年齢別・居住地域別・職業別)

単位：%

区分		回答者数 (人)	入団したい	入団したい 条件が合えば	入団したくない	すでに入団して いる	消防団を詳しく 知らない	わからない	無回答	『入団したい』
全 体		1,176	0.3	1.9	46.3	0.3	23.2	24.5	3.5	2.1
性別	女性	663	0.0	1.5	41.2	0.3	26.4	27.1	3.5	1.5
	男性	502	0.6	2.2	52.8	0.4	19.3	21.5	3.2	2.8
	その他	2	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	無回答	9	0.0	11.1	55.6	0.0	11.1	0.0	22.2	11.1
年齢別	30歳未満	108	0.0	2.8	34.3	0.0	28.7	30.6	3.7	2.8
	30歳代	158	0.6	1.3	46.2	0.0	32.9	19.0	0.0	1.9
	40歳代	223	0.0	2.2	48.9	0.9	24.7	22.9	0.4	2.2
	50歳代	214	0.9	2.8	50.0	0.0	22.9	22.0	1.4	3.7
	60歳代	182	0.0	1.1	47.3	0.5	25.8	22.5	2.7	1.1
	70歳以上	281	0.0	1.1	45.6	0.4	13.9	29.9	9.3	1.1
	無回答	10	0.0	10.0	50.0	0.0	0.0	20.0	20.0	10.0
居住地域別	J R以南	99	1.0	1.0	45.5	1.0	17.2	32.3	2.0	2.0
	片山・岸部	161	0.0	4.3	46.0	0.0	22.4	22.4	5.0	4.3
	豊津・江坂・南吹田	221	0.5	1.4	45.2	0.0	23.1	27.6	2.3	1.8
	千里山・佐井寺	210	0.5	0.5	44.3	1.0	27.1	22.4	4.3	1.0
	山田・千里丘	248	0.0	1.2	49.6	0.0	20.6	25.0	3.6	1.2
	千里N T・万博・阪大	225	0.0	2.7	46.2	0.4	26.7	21.8	2.2	2.7
	無回答	12	0.0	8.3	50.0	0.0	8.3	8.3	25.0	8.3
職業別	常時雇用者	406	0.7	2.2	49.8	0.5	25.1	20.4	1.2	3.0
	臨時雇用者	209	0.0	1.0	41.6	0.0	25.8	29.2	2.4	1.0
	派遣社員	12	0.0	0.0	33.3	0.0	41.7	25.0	0.0	0.0
	内職	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	自営業主、自由業者	56	0.0	3.6	41.1	1.8	19.6	26.8	7.1	3.6
	家族従業者	9	0.0	0.0	33.3	0.0	55.6	0.0	11.1	0.0
	経営者、重役、役員	45	0.0	4.4	60.0	0.0	13.3	20.0	2.2	4.4
	学生	43	0.0	4.7	41.9	0.0	20.9	32.6	0.0	4.7
	専業主婦・主夫	203	0.0	1.0	38.4	0.5	27.1	29.1	3.7	1.0
	無職	176	0.0	1.1	54.5	0.0	13.1	24.4	6.8	1.1
	無回答	16	0.0	6.3	37.5	0.0	18.8	6.3	31.3	6.3

(12)-2 消防団に入団したくない理由

※副問1は問80で「入団したくない」に○をした人のみお答えください。

副問1 入団したくない内容について、あてはまるものをお答えください。
(いくつでも○印)

消防団に入団したくない理由(図3.9.56)は、「時間に余裕がない」の割合が39.8%と最も高く、次いで「仕事が忙しい」の割合が30.5%、「魅力を感じない」の割合が23.7%となっています。

性別(表3.9.11)にみると、女性では「時間に余裕がない」(40.3%)、男性では「仕事が忙しい」(40.8%)が最も高くなっています。「危険が伴うため」は、男性(14.0%)よりも、女性(22.3%)が8.3ポイント高くなっています。

年齢別にみると、50歳代以下では「時間に余裕がない」が最も高く、なかでも30歳代(63.0%)で高くなっています。「魅力を感じない」では、30歳未満(48.6%)が最も高くなっています。

居住地域別にみると、片山・岸部地域では「仕事が忙しい」が最も高く、それ以外の地域では「時間に余裕がない」が最も高くなっています。

職業別にみると、「仕事が忙しい」では、経営者、重役、役員(59.3%)が最も高く、次いで常時雇用者(58.9%)が高くなっています。「時間に余裕がない」では、学生(72.2%)が最も高くなっています。

図3.9.56 消防団に入団したくない理由

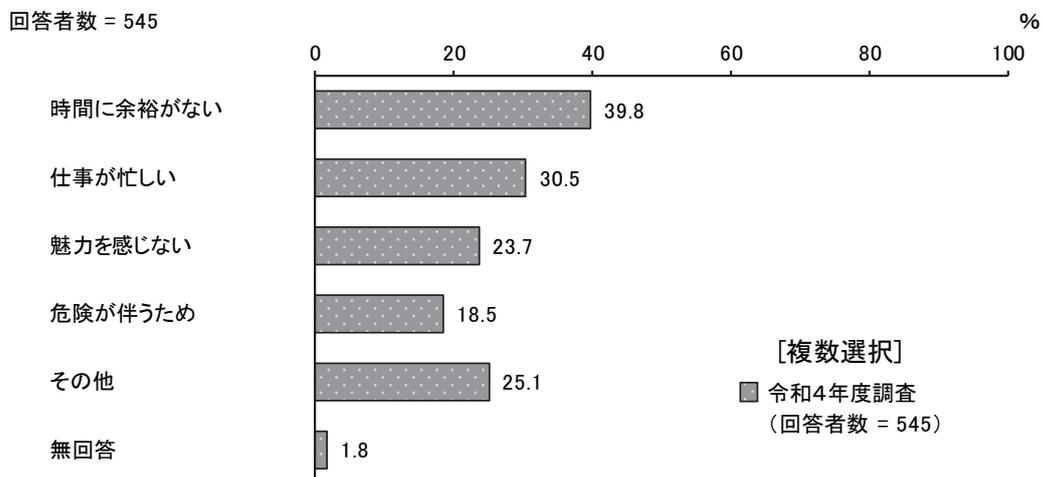


表 3.9.11 消防団に入団したくない理由(性別・年齢別・居住地域別・職業別)

単位：％

区分		回答者数(人)	仕事が忙しい	時間に余裕がない	危険が伴うため	魅力を感じない	その他	無回答
全 体		545	30.5	39.8	18.5	23.7	25.1	1.8
性別	女性	273	20.5	40.3	22.3	24.5	27.8	2.9
	男性	265	40.8	39.6	14.0	23.4	21.9	0.8
	その他	2	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	無回答	5	20.0	20.0	40.0	0.0	60.0	0.0
年齢別	30歳未満	37	43.2	54.1	18.9	48.6	2.7	0.0
	30歳代	73	47.9	63.0	19.2	28.8	6.8	0.0
	40歳代	109	40.4	54.1	18.3	28.4	8.3	0.0
	50歳代	107	43.0	57.0	15.9	19.6	11.2	0.9
	60歳代	86	20.9	23.3	16.3	26.7	32.6	4.7
	70歳以上	128	3.9	7.8	21.9	11.7	61.7	3.9
	無回答	5	40.0	20.0	20.0	0.0	60.0	0.0
居住地域別	J R以南	45	24.4	35.6	20.0	22.2	24.4	6.7
	片山・岸部	74	36.5	29.7	18.9	31.1	21.6	1.4
	豊津・江坂・南吹田	100	31.0	50.0	15.0	24.0	13.0	2.0
	千里山・佐井寺	93	24.7	44.1	20.4	19.4	29.0	1.1
	山田・千里丘	123	30.9	39.0	19.5	19.5	28.5	1.6
	千里NT・万博・阪大	104	33.7	36.5	18.3	27.9	30.8	1.0
	無回答	6	16.7	33.3	16.7	16.7	50.0	0.0
職業別	常時雇用者	202	58.9	55.0	16.3	25.7	6.4	0.5
	臨時雇用者	87	18.4	47.1	18.4	23.0	31.0	2.3
	派遣社員	4	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0
	内職	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	自営業主、自由業者	23	39.1	56.5	8.7	21.7	21.7	0.0
	家族従業者	3	33.3	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0
	経営者、重役、役員	27	59.3	37.0	0.0	14.8	14.8	3.7
	学生	18	11.1	72.2	16.7	44.4	0.0	0.0
	専業主婦・主夫	78	0.0	17.9	25.6	16.7	46.2	3.8
	無職	96	1.0	10.4	26.0	25.0	50.0	3.1
	無回答	6	16.7	33.3	16.7	16.7	50.0	0.0

(12)-3 消防団を詳しく知らない理由

**副問2 消防団を詳しく知らない内容について、あてはまるものをお答えください。
(いくつでも○印)**

消防団を詳しく知らない理由（図 3.9.57）は、「活動内容が分からない」の割合が 75.1%と最も高く、次いで「どこにあるか分からない」の割合が 70.3%、「消防職員との違いが分からない」の割合が 30.0%となっています。

性別（表 3.9.12）にみると、女性・男性ともに「活動内容が分からない」が最も高くなっていますが、女性（72.0%）より、男性（80.4%）が 8.4 ポイント高くなっています。

年齢別にみると、60 歳代を除く全ての年齢層で「活動内容が分からない」が最も高くなっています。また、40 歳代では同率で「どこにあるか分からない」が最も高く、また、60 歳代でも「どこにあるか分からない」が最も高くなっています。

居住地域別にみると、千里ニュータウン・万博・阪大地域を除く全地域で「活動内容が分からない」が最も高くなっています。JR以南は「どこにあるかわからない」も同率で最も高くなっています。

職業別にみると、臨時雇用者を除く全職業で「活動内容が分からない」が最も高くなっています。

図 3.9.57 消防団を詳しく知らない理由

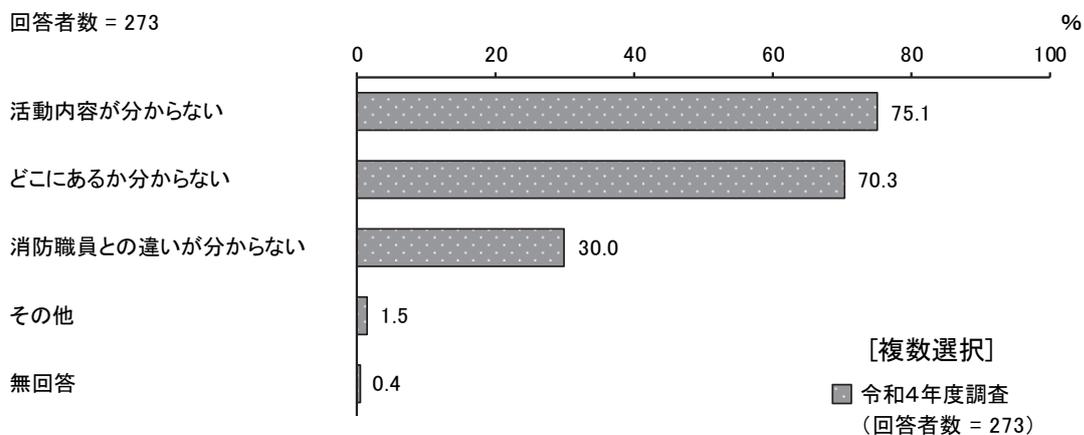


表 3.9.12 消防団を詳しく知らない理由(性別・年齢別・居住地域別・職業別)

単位：%

区分		回答者数 (人)	消防職員との違い が分からない	活動内容が分から ない	どこにあるか分か らない	その他	無回答
全 体		273	30.0	75.1	70.3	1.5	0.4
性別	女性	175	26.9	72.0	69.1	1.7	0.6
	男性	97	36.1	80.4	73.2	1.0	0.0
	その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	無回答	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
年齢別	30歳未満	31	41.9	80.6	51.6	3.2	0.0
	30歳代	52	30.8	84.6	75.0	1.9	0.0
	40歳代	55	34.5	80.0	80.0	0.0	1.8
	50歳代	49	22.4	71.4	63.3	2.0	0.0
	60歳代	47	19.1	61.7	76.6	2.1	0.0
	70歳以上	39	35.9	71.8	66.7	0.0	0.0
	無回答	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
居住地域別	J R以南	17	17.6	58.8	58.8	5.9	0.0
	片山・岸部	36	36.1	83.3	61.1	8.3	0.0
	豊津・江坂・南吹田	51	29.4	72.5	68.6	0.0	0.0
	千里山・佐井寺	57	31.6	77.2	75.4	0.0	1.8
	山田・千里丘	51	41.2	78.4	68.6	0.0	0.0
	千里NT・万博・阪大	60	18.3	71.7	78.3	0.0	0.0
	無回答	1	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
職業別	常時雇用者	102	33.3	80.4	72.5	1.0	0.0
	臨時雇用者	54	20.4	68.5	77.8	1.9	0.0
	派遣社員	5	20.0	20.0	80.0	0.0	0.0
	内職	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	自営業主、自由業者	11	45.5	90.9	72.7	9.1	0.0
	家族従業者	5	0.0	60.0	60.0	0.0	0.0
	経営者、重役、役員	6	16.7	100.0	16.7	0.0	0.0
	学生	9	33.3	88.9	44.4	0.0	0.0
	専業主婦・主夫	55	32.7	63.6	63.6	1.8	1.8
	無職	23	26.1	87.0	82.6	0.0	0.0
	無回答	3	100.0	100.0	66.7	0.0	0.0

(13) 住宅用火災警報器について

(13)-1 住宅用火災警報器の設置有無

問 81. あなたの自宅に住宅用火災警報器を設置していますか。(1つだけ○印)

住宅用火災警報器の設置有無(図 3.9.58)は、「設置している」の割合が78.6%、「設置していない」の割合が19.0%となっています。

年齢別(図3.9.59)にみると、「設置している」では、40歳代(83.9%)が最も高く、70歳以上(72.6%)が最も低くなっています。

居住地域別にみると、「設置している」では、千里ニュータウン・万博・阪大地域(84.4%)が最も高く、JR以南地域(71.7%)が最も低くなっています。

図 3.9.58 住宅用火災警報器の設置有無

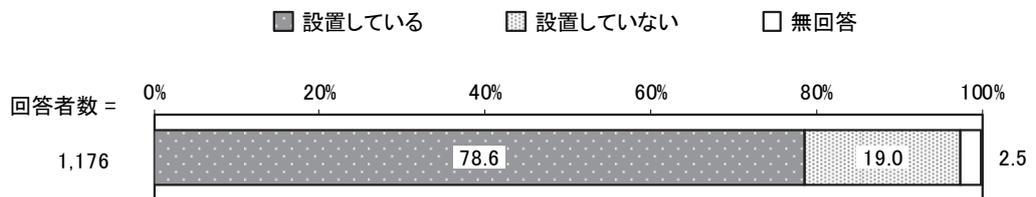
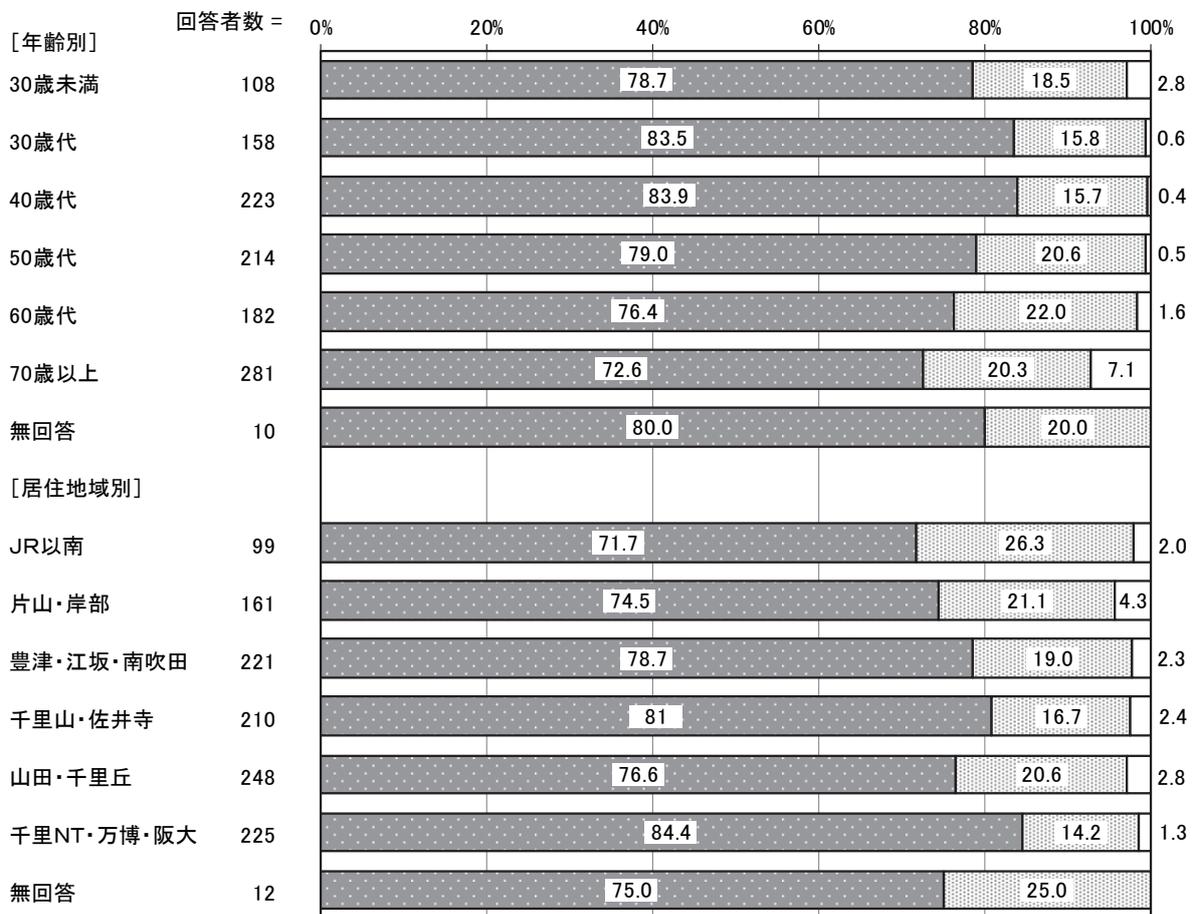


図 3.9.59 住宅用火災警報器の設置有無(年齢別・居住地域別)



(13)-2 住宅用火災警報器の点検有無

※副問 1、2は問 81 で「設置している」に○をした人のみお答えください。
 副問 1 あなたは、住宅用火災警報器を点検したことがありますか。(1つだけ○印)

住宅用火災警報器の点検有無(図 3.9.60)は、「ある」の割合が 59.1%、「ない」の割合が 37.0% となっています。

年齢別(図 3.9.61)にみると、「ある」では、40歳代(65.8%)が最も高く、30歳代(52.3%)が最も低くなっています。

居住地域別にみると、「ある」では、千里山・佐井寺地域(67.6%)が最も高く、JR以南地域(45.1%)が最も低くなっています。

図 3.9.60 住宅用火災警報器の点検有無

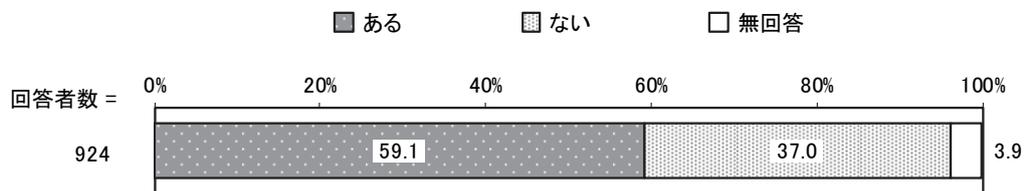
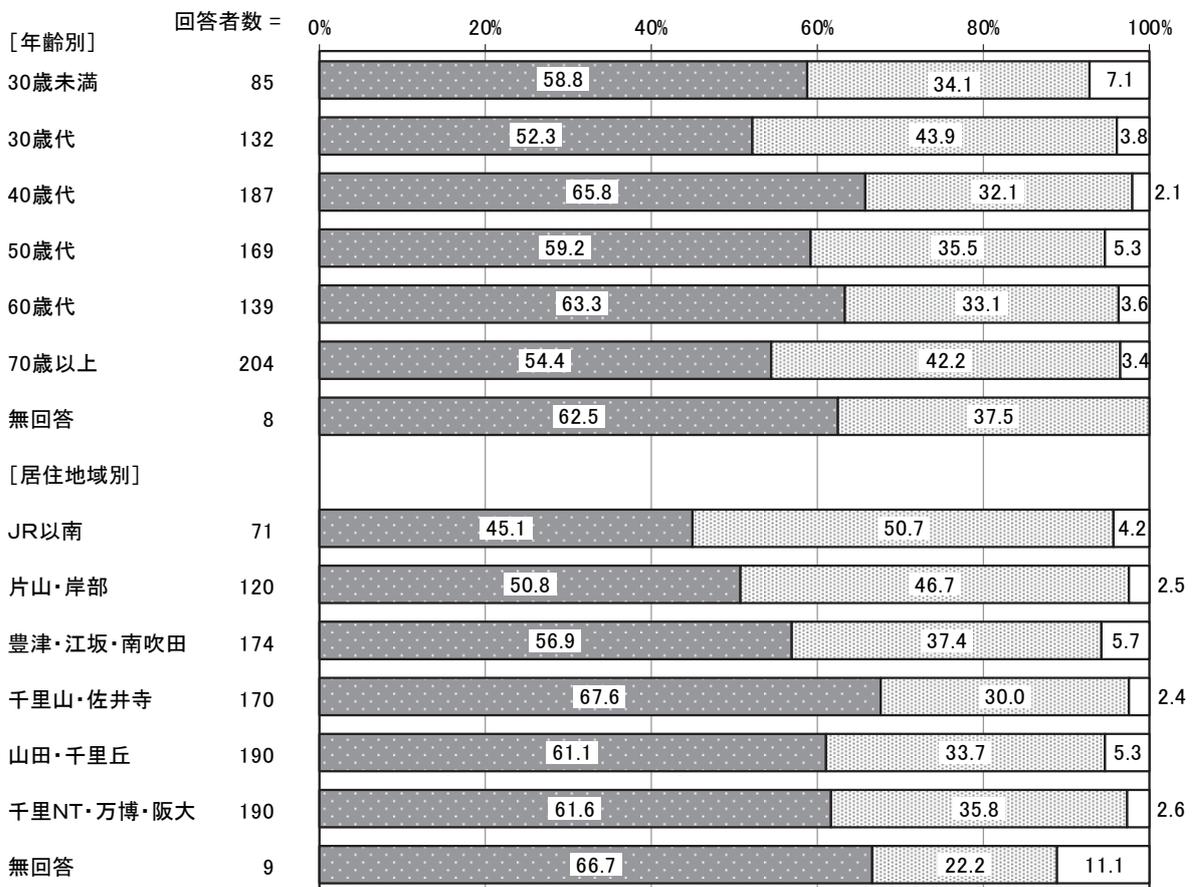


図 3.9.61 住宅用火災警報器の点検有無(年齢別・居住地域別)



(13)-3 住宅用火災警報器の交換有無

副問2 あなたは、住宅用火災警報器を交換したことがありますか。(1つだけ○印)

住宅用火災警報器の交換有無(図3.9.62)は、「ある」の割合が31.4%、「ない」の割合が60.2%となっています。

年齢別(図3.9.63)にみると、「ある」では、60歳代(41.7%)が最も高く、30歳未満(12.9%)が最も低くなっています。

居住地域別にみると、「ある」では、片山・岸部地域(35.8%)が最も高く、JR以南地域(19.7%)が最も低くなっています。

図 3.9.62 住宅用火災警報器の交換有無

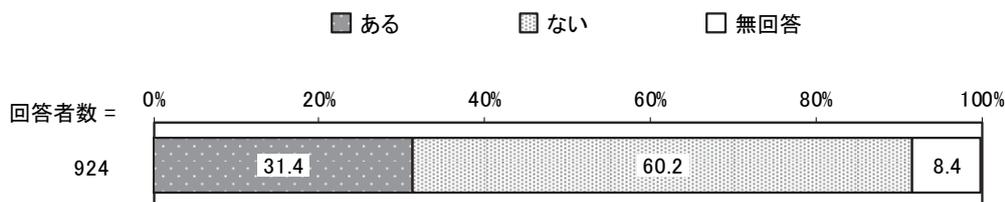
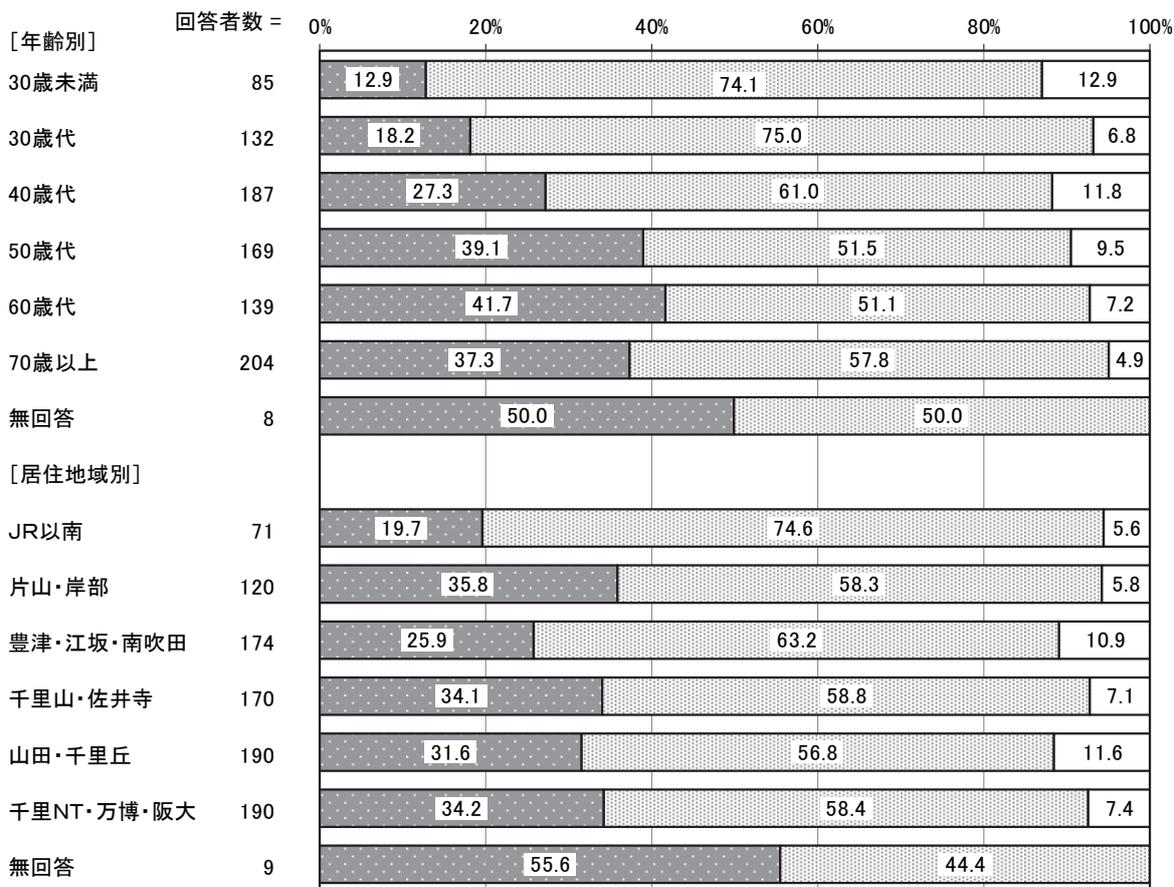


図 3.9.63 住宅用火災警報器の交換有無(年齢別・居住地域別)



(14) 市民意識調査の調査方法

問 82. 市民意識調査の調査方法についてお伺いします。

現在、郵送にて回答していただく、郵送調査を実施しておりますが、今後、スマートフォンやパソコン等を用いて Web 上で回答していただく、Web 調査の実施を検討しております。あなたは、Web 調査と郵送調査のどちらが回答しやすいですか。(1つだけ○印)

市民意識調査の調査方法(図 3.9.64)は、「郵送調査」の割合が 38.1%と最も高く、次いで「Web 調査」の割合が 33.1%、「どちらでも構わない」の割合が 25.9%となっています。

性別(図 3.9.65)にみると、女性では「郵送調査」(42.2%)が最も高い一方、男性では「Web 調査」(37.3%)が最も高くなっています。

年齢別にみると、年齢層が下がるにつれ「Web 調査」が高くなっており、30 歳未満(63.0%)で 6 割台となっています。また、年齢層が上がるにつれ「郵送調査」が高くなっており、70 歳以上(69.4%)で約 7 割となっています。

図 3.9.64 市民意識調査の調査方法

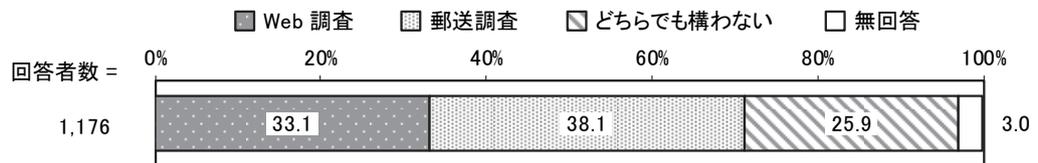


図 3.9.65 市民意識調査の調査方法(性別・年齢別)

